

第六章 商工業

第一節 本港貿易

我が國に於ける輸出貿易の最初の港として、世界に知られた横濱港は、過去六十年間帝國唯一の輸出港としての使命を果し、年を累ぬる毎にその繁榮と眞價を擧げて、今日に至つたのである。中にも生絲の輸出は、當港の生命であり、帝國經濟上の重要なものである。

本港に年額入荷生絲の數量は實に五十萬捆以上で、一捆とは九貫目を詰めた一箱を云ふ。それに對する價額は年に因つて多少の變化は免かれぬが、約六億圓内外と見るも過言ではない。此の如く、多量の生絲を取扱ふ市場は、世界中僅に紐育と横濱の外になく、紐育にあつては一箇年四十萬俵百一俵は斤内外で、本港市場と對峙して、世界に於ける重要市場の權威を示してゐる。其他東洋では上海、廣東の市場がある。本港市場と同様供給市場ではあるが、その規模も至つて小さく、比較するに足らない。又歐羅巴にも里昂リヨン、美蘭等メルボルンの需要市場があるが、是又紐育程の勢力はなく、唯歴史的にその名を認められて居るに過ぎない。

斯の如く横濱港は我が國唯一の輸出港であるのみならず、世界經濟界に最も重要な任務を背負ふておるのである。

さて本港は前述の如く五十萬捆の生絲が入荷され、直に商取引が行はれるのが、原合名會社を初め、神榮株式會社、小野商店、澁澤商店、日米生絲會社、田中商店、その他二十六軒の間屋である。生絲を買收して自己の責任を以て、外國に輸出する者には、三井物産横濱支店、已下八軒の直輸入商と、甲九十番、二百五十四番以下十一軒の外國商館がある。其他輸出向に不合格となつた生絲を買收して、自己の思惑、又は單なる取次の形式で、福井、金澤、福島、京都、甲州、上州等の機業地に賣捌く營業者、所謂蠶絲仲次業者（通稱地遣絲又は和賣）二十軒の外、吾國唯一の生絲取引所なる横濱取引所は、約五十軒の附屬仲買人を有し、毎日四回の立會を行ひ、生絲清算取引を行ひ、その樹立する公定相場は横濱現物市場の値段を支配し、同時に各地繭相場に對する指針となつて權威を持つて居る。この外に農商務省生絲検査所、絹布倉庫等の主要倉庫及銀行は、何れも生絲貿易上缺くべからざる須要機關として、本市に設けられて居つたのである。本市貿易の一般須要施設の梗概は以上に述べたのであるが、本市輸出貿易沿革概要は震災と外人の條に譲り、かの九月一日の大震災火災に於けるこれらの被害と、輸出貿易に及ぼした影響等を述

へ更に復興諸対策運動の経過を辿り、これ等當業者の苦難を記録して見やう。

(横濱税關調査資料、外務省書類、横濱開港五十年史)

第一項 生 絲

一 生 絲 の 被 害

本港生絲の被害に關しては、明確なる調査は得ることが出来なかつたので、取敢ず蠶絲貿易組合に焼残つた一部の帳簿と、關係者の記録に據りて、被害數量の算出に苦心した。その結果、十二年十一月二十六日、現在の概數は次の如くである。

問屋保管中の數量

一〇、四九三・五二^圓

六二三、四四四・三五^斤

四一九、九二七^斤

一九七、五一七・七五^斤

倉庫會社保管中の數量

一〇、〇〇〇・〇〇^斤

内爲替付

無爲替

内爲替付

無爲替

銀行保管中の數量

九、七三九・二〇^圓

五八四、九二八・二五^斤

輸出商保管中の數量

一〇、一五二・二五^圓

五九八、二八二・四四^斤

引 入 中

看 賞 済

荷爲替未拂中に屬する分

二四四・^圓

一四、七六四・五〇^斤

輸送中にして問屋引渡未済

一、四二四・^圓

(生絲) 生絲の被害

問屋分合計

八五、四〇九、五〇

三四四

四二、三二五、一〇〇

二、五一〇、三五二、九四

内外輸出商合計

取引結了積出未済に属する數量

五、四一六、^俵

六〇八、^俵

計 四二、九三三、一〇〇

外に

五、四一六、^俵

三、〇七五、五三二、九四

右の如くであるが、年に依つて價格に、多少の變化はあり、これ等の數量から推して、約參千貳百拾七萬參千圓内外に達したのである。更に、大正十二年度に於ける月別生絲の差引と同年月別生絲の入荷を示せば次の如し。

大正十二年度月別生絲差引表

(第一表)

科 目	月次	(繰越高)	(入荷高)	(以上計)	(賣込高)	(内地行)	(總失絲)	(以上計)
一	月	四、三六	一七、七三	二二、〇九	二五、六七	二、二五		二七、九二
二	月	三、一〇	一六、四三	一九、三三	二〇、五九	六、七九		二六、三八
三	月	六、八四	一四、〇六	二〇、九〇	二五、五九	五、七四		二六、三三
四	月	一、七五	四、八九	六、六四	四、四〇	四、八九		一、五〇
五	月	一、八六	三、二六	五、一二	一、九六	四、一六		三、二〇
六	月	一、二二	三、七九	五、〇一	一、八二	四、一六		三、三四
七	月	一、九四	六、一〇	八、〇四	四、九六	三、〇一		三、九七
八	月	三、九七	六、八二	一〇、七九	四、九六	三、〇一		三、九七
九	月	四、六七	五、九六	一〇、六三	四、八七	三、〇一		三、八八
十	月	九、〇六	五、九〇	一四、九六	五、〇二	三、〇一		一八、〇〇
十一	月	一、九六	四、七三	六、六九	一、七二	六、七九		三、五一
十二	月	一、九六	四、七三	六、六九	一、七二	六、七九		三、五一
合計		四、七六	一四、〇六	一八、八二	二〇、八七	三、〇一		二四、八八
大正十一年			五、〇二	五、〇二	四、六三	四、〇一		一、〇一
大正十年			五、三〇	五、三〇	四、六三	四、〇一		一、二九
大正九年			五、〇〇	五、〇〇	四、六三	四、〇一		一、〇〇
大正八年			四、九一	四、九一	四、六三	四、〇一		〇、九〇
大正七年			四、九一	四、九一	四、六三	四、〇一		〇、九〇
大正六年			四、九一	四、九一	四、六三	四、〇一		〇、九〇
大正五年			四、九一	四、九一	四、六三	四、〇一		〇、九〇
大正四年			四、九一	四、九一	四、六三	四、〇一		〇、九〇

(生絲) 生絲の被害

三四五

大正三年
大正二年

三三、五半
三三、七元

二六、三三
三六、四〇半

一八、四半
二六、五半

三〇、七半
三三、七元

三四六

大正十二年度月別生絲入荷表

(第二表)

月次	科目		(計)	(果)
	(器械製絲)	(座繰製絲)		
一月	一七、七三	〇	一七、七三	一〇、六四半
二月	一六、八元半	〇	一六、八元半	六、七五
三月	一四、〇四半	〇	一四、〇四半	一〇、五〇
四月	四、九五	〇	四、八九	一四、六六
五月	三、二六	〇	三、二六	一七、八五半
六月	元、七九半	〇	元、七九半	二〇、九七半
七月	六、〇五	〇	六、〇五	二七、六六半
八月	五、九三	〇	五、八九	三〇、七半
九月	五、五三	〇	五、五八	三三、七半
十月	四、四六	〇	四、九〇	三〇、六半
十一月	五、三三半	〇	五、二〇半	四〇、三〇半
十二月	四、七五	〇	四、六三	四三、六四
合計	一七、七三	〇	一七、七三	一〇、六四半

然しながら一面是らの調査は、数字の上に表はれたものを総合したのに過ぎない。其後に至つて更に調査を重ね、五萬五千六百七柵の焼失數量が明かになつて、時價五千

五百萬圓以上に達してゐることが知れた。外に前記の店舗輸出機關取引機關検査機關だけで、壹億圓以上の損害額に昇つた。この驚くべき破壊は、一時人心を喪失せしめ、内外生絲の市價に大變動を與へ、その標準を失はしめたので、遠くは紐育市場に半恐慌的の状態を招來し、經濟的見地より重大なる現象を來たした。かくして生絲の中樞を失ひ、輸出も絶望の状態に陥つたのであるが、茲に不思議にも猛火の渦中にあり乍ら、災厄を免れた倉庫は、三井物産支店、江南株式會社の二會社と、澁澤小野の二商店と、外に川崎銀行であつた。三井物産には當時一千俵の生絲が在庫し、川崎銀行の倉庫には日米生絲會社の持絲があり、それに小野商店は焼けなかつたので、無傷で助かつた。澁澤商店も同様一つの傷もなく、數量も小野商店に次いで、澁澤小野商店の生絲を合せて約八千五百柵が助かつたのである。これらの焼失を免かれた生絲は、絶望裡に置かれた本市貿易の復興に生氣を與へたのである。

更に市内取引業者と相竝んで、横濱に入荷する生絲生産業者の損害も、莫大なるものであつた。が生産方面から見れば、其損害割合は約一パーセント弱に當り、豫想以上に達しなかつた。本港に直接關係ある災害地各府縣工場の損害を述べれば左の如くである。

(生絲) 生絲の被害

三四七

東京府 岩淵小口組赤羽製絲場(五三七釜)の繰絲工場四棟、仕上工場二棟が倒潰し、死傷七十二名を出し、西多摩下田工場(一〇〇釜)、能川村森田製絲所(二一〇釜)等も多少損害を被つた。

山梨縣 畷澤町輝國館製絲工場(二四八釜)全部倒潰、作業中止。相興村隆基館製絲場(二〇八釜)の工場が一部倒潰、甲府市矢島組第三工場(五六〇釜)及び同市丸茂製絲場(三五〇釜)等も相當の被害があつた。金融方面では若尾第十有信の各銀行がシンジケートを組織し、日本銀行から生絲資金を仰ぐこととし、指定倉庫たる若尾倉庫に入れたるものに對し金融をなし、正金銀行も亦荷爲替を擔保として相當融通した。

千葉縣 被害は殆どなし。小規模工場が多いので、交通杜絶、竝に金融梗塞のために、出荷不能に陥り、苦痛を嘗めたが、生産上の打撃は甚大でなかつた。

神奈川縣 被害甚大にして、二千四百七十一釜中、繰業開始の見込あるものは、僅に一割強に過ぎぬ。全潰全焼等に依り、復舊の見込のないものは、中和田村持田工場(二一八釜)、同宮崎工場(三二〇釜)、藤澤町徳増製絲工場(一三八釜)、吉田島村高木工場(五〇〇釜)、澁谷村持田第二工場(二五〇釜)、茅ヶ崎町純水館(二四〇釜)、瀬谷村川口製絲工場(一四四釜)等である。尚藤澤の若尾倉庫全潰のため、同倉庫内に保管中の繭約百八十萬圓方汚損した

ものも大損害であつた。此れに據つて見れば、生絲工場全體の損失は、約二千八百釜で、此中の過半は神奈川縣下の被害であつた。之れを總釜數たる二十九萬釜に比較すると、僅に一パーセント弱の損失で、生産力の方面から見るとは大した損害ではなかつた。

(横濱製絲貿易復興會調査資料)

二 生絲燒失と其影響

不慮の大災は重要輸出港を破壊したのであるから、吾國に於ける經濟界にも尠からざる影響を與へたことは論を俟たない。人或は横濱の災害は單なる一地方として看過するかも知れぬが、それは餘りに國家經濟を辨へないからで、前述の如く本邦ばかりでなく、世界的に貿易經濟に大狂ひを起したのである。先づ三千の製絲家は、一時路頭に迷つた。二百萬の養蠶家は、繭を投賣りするの悲運に陥つたのである。信州甲府上總武藏を初めとし、遠くは四國九州朝鮮に至るまでの範圍に及ぼした。その相場も、地震前には一貫拾圓以上を唱へた繭相場も、本港全滅の報に因りて、參四圓の安値でも、一人の拾ひ手をも一時は求める者はなかつたと云ふ現狀を呈したのである。當時狀態は以上の如くであるが、更に遡つて大正十二年度の生絲を含む我國の輸出入貿易狀況

を見ると、出超期節に入つた七月・八月の下半期に於ても依然として入超續となり、七月には四千百七拾參萬七千圓、八月には貳千貳拾參萬八千圓の輸入超過を示したのである。斯くの如き變態の貿易現象を來してゐる矢先にかゝる天災を引起したのであるから、大正十二年、我國輸出入貿易のバランスが根底から覆されて了つた。直接の打撃は取りも直さず、本港の破壊されたこと、生絲等の輸出貨物の焼失したこと、更に間接には金融疏通の不能になつたことで、運輸機關・通信機關の杜絶等であつた。同年下半期に於ける、變態的輸入超過の原因は、上期に於て、範圍は小さい乍らも、中間景氣が付いたので、下半期に何等かの好景氣あるべしと見越して、思惑輸入が試みられ、其註文品は七月・八月に亘つて、著荷したのと、米國の景氣が上半期以來稍、沈靜の状態にあつたので、生絲の輸出も従つて面白からず、可成りの減少を來たして居たのとに原因するので、多分九月より十月にかけて、輸出貿易が好況に赴くのであらうと一般に像測せられ、生絲の如きも出荷盛りの期に面して來てゐたので、十月には必ず入超を來すものと信せられてゐた。この肝腎な時期に、貿易の中樞地横濱が破壊されたので、全く杜絶の状態に陥つたのであつた。

今試みに災害を受けたる本港と、影響を受けざる港との前年度同期輸出入の比較を

見れば左の如くである。

大正十二年 (單位千圓)

八 月	九 月	十 月	十 月	十 月	十 月
輸 入	輸 出	輸 入	輸 出	輸 入	輸 出
七八、九〇七	二二、三六一	五四、二一七	一四、六九一	七、九九四	二六、七二〇
二四、〇〇〇	二二、二八五	五二、六一	二二、二八五	四二、七五四	二八、六八一
一一、九二七	一七、一七八	一六、三六八	一七、一七八	一六、三六八	一七、一七八
二八、五三一	一七、八五三	五、二六一	二五、六五一	三三、七六一	一七、八五三
五二、四四七	一〇、四〇四	一三、四五二	一七、八五三		

大正十一年 (單位千圓)

八 月	九 月	八 月	九 月
輸 入	輸 出	輸 入	輸 出
八九、一一二	二一、一七五	四四、二五〇	二、八三八
二〇、一六八	二四、一〇九	九〇、〇五六	一〇、一五〇
六三、二二〇	二二、〇二一	五二、九六三	六四、三四六

(生絲) 生絲焼失と其影響

十 月	輸		輸	
	入	出	入	出
十	九六、四八八	二八、〇三二	四二、四六九	七、九六六
十一	七六、五八七	二六、〇三八	四〇、一五七	一〇、二〇四
				二四、一五九
				四二、七三五
				二二、二六四
				五一、九六八

三五二

我が經濟界は斯く震災の影響を受け、一般に不振の域を脱することも得ず、貿易は主として復興材料輸入の爲め、未曾有の入超となり、一方對外爲替相場の暴落を來した。更に震災の善後處置として、解決を要する重大問題もあつた。幸に二月中旬、英米市場に於て五億五千圓の外債が成立し、又困難なる火災保險問題、燒失生絲問題の如きも圓滿に處理されたので、財界も漸次平調に復したのであるが、一般の事業界は、整理尙大にして、益、今後の努力を俟つべきもの甚だ多いのである。

已上は貿易經濟に關し、震災の影響の一端を概記したに過ぎない。(横濱生絲貿易復興會調査書横濱市日報横

濱復興狀況商
業會議所編)

三 生絲貿易の復舊諸對策運動と其成果

横濱市を一夜にして焦土に化し、一切の施設機關は殆んど全滅し、中にも直接生存に

緊切なる經濟機關は悉く灰燼に歸した。市の將來も全く危まるゝ有様であつた。市街は何處を見ても、店舗を初め金融、交通、通信運輸等の補助機關は影をも止めず、商買は市外に移り、本市唯一の生命たる生絲貿易の前途も危まれ、流言は頻々として起り、生絲貿易は神戸港に移るなどといふ噂もあつた。その結果市内商人は相率ひて活路を他方に求むるものも出で、新横濱市の建設の上にも多大なる障礙を免かれなかつた。

かゝる混亂に市當局及愛郷の士は、これ等の脅威を一掃することに努め、將來多少なりとも悪影響を與ふるやうなことがあつてはならぬと考へ、居所も定まらぬ市會議員に急使を派して、十一日午前十時、災害後最初の緊急市會を召集した。渡邊市長は前言冠頭に

前古未曾有の大災害の結果、我横濱は殆んど全滅した。爲めに或は貿易を東京に引移すべしとか、生絲貿易を神戸に移すべしとか、恰も吾横濱市が消滅せるかの如く不安の感を抱かしむる浮説すら起るのである。然れども我が市民はかゝる殘骸に屈せず、奮に倍したる大横濱市の建設に覺悟と決心とを有するものである。この覺悟決心を今市會に於て發表し、内外に宣明する事は、焦眉の急務と信するに依り、今日市會の召集を煩はした所以である。冀くは、充分の審議を致されたらう。

(生絲) 生絲貿易の復舊諸對策運動と其成果

と宣べてあることに依つて、明かに當時混亂状態にある本市の貿易前途を憂慮し、如何にして復興せしめやうかと云ふ衷心の叫びであることが伺はれるのである。

而し前途は大なる暗雲に閉ざされてをる。それは貿易施設の爲めに缺くべからざる主力である。金融・交通・通信運輸等の諸機關は總て杜絶してゐる。これらの機關は實に本市の復興を疑はしむる程に、廢滅の悲運に遭つてゐたから、従つて前述の如く、此の地に利なしと、絶望の嘆を残した絹織物輸出商の如きは、神戸に店舗を構ふると云ふ始末であつた。又一方には通信機關の杜絶によつて、外人の多くは本市の復興を疑ひ、恰も死地の如くに思つた。船舶の出入も、物貨の輸送も、一時は本市以外の地に轉ずると云ふ事になつた。かくの如き一時的の現象は、混亂状態であつた當時には、有り得べきことである。

遡つて九月七日、混亂と絶望とに封せられ、方策も術策も殆んど見當もつかぬ有様の際、小野哲氏・小島氏・小野俊氏・井上定氏・上甲氏・木村氏その他の諸氏は、先づ公園内社交俱樂部跡に相會し、生絲復活に必死を誓つて、その日は別れ、翌八日に小野哲氏は本牧の原氏を訪問し、前日の決心を縷々陳述して、氏の奮起を促した結果、その後には於ける横濱貿易復興會は成立の端緒を得たのである。明けて十日午前六時、原小野兩氏は本牧に會

して、直に出京を決し、同所から一艘の艇船に乗つて、水上警察署裏に留まり、同所から、三井物産會社の井上治兵衛氏も加はつて、豊嶋丸で芝浦に上陸したのである。翌十一日、三氏は、重大使命を帯びて、關係各省の大臣を歴訪して、縷々熱涙を含む一大決意を披瀝して、政府の援助を懇望した。その結果、主務大臣は何れも本市回復の爲めには、極度の援助を吝まずとの力強い言明を得たので、三氏は衷心の勇躍を抑へつつ歸濱した。此一條は正しく貿易都市の前途に一縷の光明を齎らしたと云はねばならぬ。その大要は次の如くである。

各位並に市民諸君が、此の際一大決心を振り起して、捲土重來的の施設を講ぜんとする意氣込みは、實に贊すべきである。政府も亦進んで極力援助を吝まない。正金銀行が國家の爲め一大飛躍的に貢献するに至つては、寧ろ恰も絶好の機であるに依り、内外爲替を引受け、横濱市復興の爲めに至上の聲援と便宜を與ふる様に取計はしむるであらう。尙交通機關は陸軍をして速に完成せしめ、其建造物の監視に努めしめ、倉庫は主務局長税關長と協議の上、保税倉庫の無償利用を爲さしむるべし。又海外市場との通信は數日ならずして回復せしめ、迅速に棧橋の修復をなして、船舶の出入に充分の便を與ふるやうに取計ふべし。

即ち、これ等の各主要事項が、その實現を見るならば、一通りの市場としての體裁を具

備する譯であれば、従つて市の前途に對しては、早くも一道の光明を認め得られたのである。因に海外通信問題は政府としても、現下過激思想の問題から躊躇してをつたので、極力三氏は遞信大臣に具陳した結果、櫻木驛前郵便局を急設し、局舎の材料は本市當局と交渉して、茲に海外通信も可能ならしめ、來る十七日の初生絲輸出の原動力となり、一捆に八百圓の價を見たのである。一方九月八日蠶絲業救濟方法に就き、本市の營業者五十餘名の協議會を開催して、先づ一應市復活善後策に關する意見を開陳し、實行委員十名を擧げて、左の如き決議に及んだ。

決 議

交通及運輸、倉庫金融の機關を整備し、地方の蠶絲家をして安心して出荷する様通知すること。これが復活を圖るためには、決死の覺悟を以て當らねばならぬ。故に組合全員を委員として、九日更に三井物産會社に參集し、それらの具體的決議を爲すことに決した。更に營業者はこれらの會合に依つて、生絲貿易の回復方法に關しても、最善の協議を重ねて來たが、何れもこの大勇猛心は、此處數日後には適當なる具體的施設を講ずる意氣込みであつた。一方貿易復興の先決問題たる市場設置地に就ては、過般來横濱蠶絲貿易復興會の大活動により、神鞭稅關長の厚意ある斡旋で、稅關内新港保稅倉庫が無料提

供された。周圍には五百坪の敷地があり、市役所供給の材料を以てバラック式附屬建物を速に建てるべく、十三日工事に著手したが、これらの建物は生絲取引市場を中心として、各輸出業者、並に賣込問屋の事務所、荷造場等の設備に充てるもので、保稅倉庫内には生絲約五萬捆を容れ得る能力がある。右準備著手決定と共に、復興會では全市製絲家と聯絡を圖る爲め、部署を定めて市役所證明書を携帶して、九月十三日、左記の諸氏外百名夫々出發したのである。

- | | |
|-------|----------------|
| 東京方面 | 小川・井上。 |
| 相州方面 | 若尾・木村。 |
| 甲府方面 | 中澤・小川。 |
| 京都方面 | 奥村・神榮・原・小島・日米。 |
| 信州方面 | 原・澁澤・小野・湧川・日米。 |
| 福島方面 | 阿部・渡邊。 |
| 山形方面 | 田中・神榮。 |
| 静岡方面 | 小島・渡邊・小川。 |
| 名古屋方面 | 井上・小島・湧川。 |
| 四國方面 | 日米・中澤・岩倉・數野。 |

(生絲) 生絲貿易の復舊諸對策運動と其成果

中國方面 小野・原・日米・神榮・奥村・小島。
九州方面 原・奥村・日米・澁澤・小野・神榮。
北陸方面 岩倉・山田。

然るにこれらの對策運動に遡つて、震災直後二日來、既に全国各地の製絲組合業代表者は、交通全く杜絶の状態なるにも拘らず、萬難を排し、續々來市し、懇篤なる慰問と、熱情とを表示され、横濱生絲市場の一日も早く復興するやうにとの眞情をもらしたのである。更に右代表者は一週間以内に開市の見込も立てば、貴市に出荷すべしと言明され、既に出荷準備も整へたる向も多く、現に六郷川の向ふまで輸送し來たものもあつたのである。

製絲業代表者の來濱に依つて、本市の貿易復活の運動は、大なる刺激を受けたことは事實であつた。引續き十四日には、井坂商業會議所會頭外、議員、並に取引所重役と會合し、善後策を協議し、其後正金銀行も復興會の要求に應じ、製絲家の取引銀行に對し、信用狀を發行して、荷爲替の取組みを圓滑ならしむる旨、その後二十二日に聲明した。次で市内組合銀行も、二十五日一齊に開業するに至つたのである。

かくの如く寢食を忘れての畫策奮闘は、災後約二旬を経過して、即ち忘れ得ぬ九月十七日震災後第一回の生絲を米國に輸送し、又同日の市況は最優等は貳千八百八拾圓、武州格は貳千〇七拾圓であつた。第一回の現物即ち前記焼失を免かれたる小野・澁澤二商店の生絲を以て、商談は本町一丁目復興會事務所に出來したのである。

餘震尙ほ止まず、餘燼未だ消えなかつた九月十七日の超人的行動は、内外國人共々に、その必死の努力と、迅速なる行動とに驚嘆せぬものはなかつた。而もその成績は八月三十日の成行値極めに比し、百斤對百五十六拾圓高に振合したのである。翌十八日午後一時より本市假事務所樓上に於て、横濱商業會議所第一回の臨時總會は開催され、井坂會頭を初め十五名の議員出席して、本議に入るや、左の決議を一齊に可決した。

決 議

我横濱市は帝都と共に、振古未曾有の災厄に遇ひ、殊に當市慘狀の激甚なるは殆んど言語に絶す。之が爲に數萬の生靈を失ひ、過去六十年間に亘り、市民の不撓不屈の努力を以て建設したる經濟的及文化的の基礎は根底より覆されて、又其の跡を止めざるに至れり。其の慘狀を目撃するもの、誰か茫然自失せざるを得んや。吾人の見る所を以てすれば、今回の災厄に基く損害は、全般を通じ蓋し五拾億圓を下らず。當市の被る所亦六億に及び、彼の國運を堵して戦ひたる日清日露の兩役を以てしても、其の戦費が之を通計して、今次の損害額の半に過ぎざるを思はば、如何

(生絲) 生絲貿易の復舊諸對策運動と其成果

に其災害の甚大なるに戰慄せざる能はず。而して其の被害は京濱兩市商工の中心に亘りて、其の全部を破壊したるを以て、生産を杜絶し、貿易を停止し、到底市民の獨力を以てしては之が回復を全ふすること能はず。隨て復舊に對し、未だ何等曙光を認むること能はざるの状態を考ふれば、吾人は切々其の災厄の深甚なるに想到せざるを得ず。

此時に際し吾人は當面の急に處する爲め、縣市當局者を援けて、極力災害の援助と、整理に盡力せざるべからざるは勿論なれども、更に大なる責任として吾人の双肩に懸るものは、當市の復興と、其の經濟的回復とにあり。

惟ふに我横濱は帝都の關門たると同時に、本邦の大半に對する國際貿易の吞吐たり。京濱兩市は經濟的に一單位たり。横濱の復興は獨り我市民の爲めに之を必要とするのみならず、實に帝都の爲め將た我國全般の爲めに絶對に之を必要とす。横濱にして復興せざれば、帝都の復興は全からず。横濱にして其の經濟的回復を見ざれば、災厄に起因せる我國の經濟的破壊は直に恢復せりと言ふことを得ず。政府當局者及一般國民は此の理を了知するが故に、吾人は國家が帝都の復興に關聯して、當市の復興に全力を盡すを疑はずと雖、而かも横濱の復興は横濱市民の絶大なる努力と犠牲とに俟たざるべからず。吾人は斷々乎として確固たる信念の下に、不撓の精神を以て、當市の復興に向つて勇往邁進以て其の目的を達するの覺悟を定めざるべからず。復興の第一は港灣の復興にあり。幸にして今回の震災が其の設備に加へたる損害は、外見の如

く甚しからず。僅々數百萬圓を以て港灣の使用を全からしめ得べしといふ。我國貿易の大半は、勿論災害の復興に要する主要なる物資の陸揚げは、主として我横濱港に俟たざるべからず。幸に國家が此の見地に據り、極めて敏活に其の復舊に著手せられたるは、吾人の感謝に堪へざる所なり。思ふに當港の利用は今後益、大ならんとするに當り、吾人は單に其の復舊を以て、満足すべきにあらず。當港の果すべき使用を全からしむる爲め、適當の擴張計畫に對し、其の調査研究は勿論、進んで其の實現に對する努力を緩ふすべきにあらず。

生絲の輸出は帝國經濟の中樞にして、又當港の生命なり。此の業務は實に我市民が數十年に亘る努力の結晶なるが故に、當市に於て其の既に占めたる地歩を永遠に維持せんとするは、吾人の權利たると同時に、又其の義務なり。我生絲業者が此の最大厄難の日に當り、全般の施設を悉く喪失したるに拘らず、毅然として起ち、災後未だ二旬を出ざるに、早く既に其の取引を開始せるは、殆んど人力を超越せるの努力にして、其の元氣の旺盛なる誠に人意を強ふする者と謂ふべし。吾人は其の努力に對し、又政府及横濱正金銀行が、この計畫に對する至大の援助に對し、滿腔の感謝を表すると同時に、吾人市民も亦終局に其の目的を達せしむる爲め、如何なる援助も之を吝まざるの覺悟を有せざるべからず。當市及其の背後地帯に於ける工業は、當市の經濟的動脈なり。幸に近時漸く其の股脈を見んとするに當り、此の災厄に際會して殆んど全都の破壊を見たるは、其遺憾譬ふるに物なし。吾人は國家が此の如き工業の復舊に對し、至大の援助を與ふることを

疑はざれども、之と同時に其の實現に對し、吾人は大々的努力を致さざる可からず。吾人は今回の災害に遇うて、偏に天意可畏の感を禁ずる能はず。各人速に内に自ら省み、相警め、相倅め、眞摯實實の大義に據り奮勵努力、商工の復興を計り、禍を變じて福となすの決心を定め、之を實行せざれば、恐らくは天意に悖らん。吾人は茲に帝國の國運を負うて、當市の復興進展を期するの覺悟を表明せんとす。

大正十二年九月十八日

横濱商業會議所

これらの決議等は、全く當時に於ける不撓の精神を發露し、又一面には政府及正金銀行の援助と共に前途には益、光明を見出すに至つたのである。かくして萬端の施設も著々歩を進め、同日原氏を會長に、市長を商業會議所會頭になし、市會議員等は協力して、前記工事中の本町通り組合會館向側に急造バラック百五十坪を設け、同日生絲取引開始の共同市場を設くるに至つたのである。倉庫には保税倉庫第二號を充て、八十坪、二十九室ありて、優に藏入五萬梱の餘地あり、而して正金銀行は一梱八百圓の保證に立つ外、總ゆる金融の便を計ることとなり、中央生絲市場の體裁を具するに至つた。事務所は税關倉庫より舊市場に移し、原渡邊井上三井商店、芳賀生絲検査所、長市商工課、其他當

業者輸出業者問屋賣込商等多數參集し、即賣方三名委員六名を設け、直段折衝の結果、

最優等	二、一五〇圓
羽子板	二、一三〇圓
毬	二、一〇〇圓
矢島	二、〇七〇圓
八王子	二、〇五〇圓

の相場を現出し、米國に於ける相場五割の奔騰を見たるに、何れも僅かに百五拾圓高を示せるは、商況極めて健實の將來を祝福するに至つた所以である。

已上の初手合以來、毎日一萬六千斤餘の入荷あり。何れも武州埼玉茨城下總等自動車の開通運轉し得る方面よりの入荷にして、最近東高島驛にも入荷を見るに至つた所から、同方面よりの鐵道移入あるのみならず、二十四日は清水港で積込んだ百五十梱の入荷があつた。尙ほ同港からは弘濟丸博愛丸等順次入荷、搭載來港する豫定にて、在荷品は漸次増加の見込みも立つた。一方輸出状態を見ても、嚮に三井物産より三洋丸にて輸出されたのであるが、米國に於て十九日以來、商談成立を見たので、輸出も漸次増加の傾向を呈したのである。前記の如く横濱貿易の發達上、原動力とも云ふべき正金銀行の生絲金融の援助は、多大なるを以て、他方生絲業者も焦眉を開けるのみならず、生絲

(生絲) 生絲貿易の復舊諸對策運動と其成果

の先高を見込、繭値段上騰の傾向を呈した。而して以後生絲取引外人は主として神戸に避難したのであつたが、神戸港に於ては到底取引不能であるのと、既に取引との關係もある所から、漸次本市に歸還する状況であつた。既に甲九ボシャー・ト二六四番英一番九二番二四二番一九五番等の商館員は歸濱し、ナンセン號に一箇月餘の食糧を塔載し、取引に參加してゐる向もある。而して取引高は、

九月十七日

三三、五〇〇斤

九月十九日

三三、五〇〇斤

九月二十二日

三〇、〇〇〇斤

右の如くである。十八日・二十日・二十四日は休業したのであるが、以上の如く入荷高の相當なると、米國に於ける商況が良好に向ひつつあるのと、外人は續々歸濱すると、復興會の絶對的奮闘と、政府筋の援助と、これらが相俟つて全く今後益、順調に向はしむる主因となつたのである。

尙ほ其後に於ける、本市生絲取引の景況を見るに、益、順調に好況を呈し、毎日七八百梱乃至二千梱の取引を示し、九月二十八日の概況を聞くに、參拾圓高にして、貳千貳百拾圓四萬斤の取引を示してゐる。

前記の如く、震災直後は偏に地方製絲家の出荷を促がした不撓の努力の結果、九月中の入荷は實に五千九百三十八梱であり、十月十五日の現在は二萬二千四十梱で、合計二萬七千九百八十三梱に達してゐるのである。

かくの如く追日の活況を示し得ることになつたのであるが、一方夫れから夫へと寸毫の休息もなく、對策運動に勉め、十月十八日は、更に政府生絲検査所設置を陳情した。

陳 情 書

曩に帝國蠶絲會社解散の當時、生絲検査所の擴張及倉庫建設資金に、更に國庫より八拾萬圓を支出し、大正十二年度以降三箇年の繼續費を以て、生絲検査所の擴張及倉庫の建設に著手せられ候様仄聞致候。然るに今回の震災に依り、全市焦土と化し、今や朝野死力を擧げて、之れが復舊に没頭しつつあり。申す迄もなく生絲貿易は當市の生命にして、一時も速かに復舊を要するに付、右資金は一時に支出し、一箇年間に工事の全部を完成せられ候様、特別の御詮議相成度、此段申請候也。

大正十二年十月十八日

横濱復興會會長

原

富

太 郎

農商務大臣

田

健

次

郎 殿

(生絲) 生絲貿易の復舊對策運動と其成果

更に二十七日には横濱生絲取引業者の代表澁澤原氏外十數名は、農商務省に出頭し、田農相代理長場局長に面會を得、本市復興上交通至便なる波止場より海岸通りの一帯を畫して、生絲町となし、横濱港繁榮の一助としたき方針なれば、本省が生絲検査所其他重要機關の建設に際しても、この點を十分に考慮せられたき旨を陳情した。之に對して局長は其意を諒として、極力之が實現に助力すべき旨を答へられ、一同は満足して退出した。

さて横濱に於ける生絲の在荷は、逐日増加し、又政府筋との交渉も順調を呈したが、ここに交通機關の缺陷と金融に關する産地製絲家は、正金銀行が應急的施設として開始した。内地向き荷爲替取引組に就ては、未だ充分利用するに到らず、産地に於ては正金の右計畫を以て、輸出生絲外の在荷品に對する金融をも引受けたものの如く思惟するものもあつたが、此間種々の誤解があり、延いて横濱に對する出荷上の故障も少くないので、横濱輸出商や、生産地の製絲家中には、目下の生絲金融状態を一層改善し、當業者の利便を計り度いと云ふので、寄々銀行とも、交渉中であつたが、右につき横濱に於ける正金以下六銀行は、十月十二日午後、東京集會所に代表者の集會を催し、種々意見を交換する所あり、其の結果、目下の場合銀行としては出來得る限り、生絲取引者の便宜を計り、金融

を疏通する外なしと決した模様である。併し正金の内地荷爲替取引組に就ては、それが横濱産地間の生絲取引を主としてゐるに拘らず、一般金融の安定するに従ひ、種々其職分につき非議するものがある位だから、いづれ之を普通銀行の活動に俟たねばならぬだらうが、罹災後一般銀行に對する信用に就て、製絲家中尙不安を抱く者もあるから、此際製絲家は正金の活動につき充分の理解と、信頼を以て、出發の目的を達すべきを知らしめた。

已上の如く本市生絲貿易の復興は、漸くその萌芽を發することを得たのも、偏に愛郷の有志並に市當局の渾身の努力に外ならないのである。横濱市日報、市商工課、蠶絲復興會
市内版各新聞記載記事。

四 生絲貿易と金融

横濱の經濟的復興の原動力は、いふ迄もなく、金融にある。然して横濱金融の中心は、何と云つても正金銀行である。従つて正金銀行の復興に對する態度如何は、實に横濱の經濟的復興の鍵である。生絲貿易復興は種々なる機關の一致の働きに因て、その運轉を開始したるに相違なきも、その中心動力は正金銀行が九貫目八百圓の荷爲替を無限に受拂ふべしと聲明したる一大決斷に因りたることに何人も疑を挾まないものである。この聲明に因て、生絲貿易は燒原の焦土の内より、一週間を出でずし

て復活したのである。余(原富太郎氏)は九月十一日、兒玉正金頭取を訪問し、頭取から「生絲貿易に奉仕のため、この際生絲の入荷に對し、無限の荷爲替の受拂をなすべく、その貸付價格についても、復興會と協議して、援助を惜まざるべし」との言明を聞き、心中一種の感動と、限りなき感謝を禁じ得なかつたと同時に、横濱の復興なるべしと思つた。併しその夜東京からの歸途、この如き喜びが往々糖喜びになつてしまふ事があるのは、曾て幾度も経験した。かかる聲明が最初の非常に寛濶なる態度に似ず、いざ實行の場合となると、平時と同様、用心や事務上の繁雜なる形式や、事の緩急を辨ぜぬ事務員の取扱振によつて、實用の範圍を狭められ、その實行が聲明に伴はざる事になるまいかと考へた。然るにその後事業の進行と共に、兒玉頭取の態度は嚴として初めの聲明の如く更に變らず、九貫目八百圓の價格も快諾した。信用狀も地方の各銀行にも製絲組合にも荷受の電報を發して呉れた。その他諸般の便宜を計つて呉れた。總て形式や手續を省略して、實効を擧ぐる可く努めて呉れた。總て簡潔を旨として、殆んど凝視するに暇なかつた程の快速力を以て、事を處理して呉れた。余は今後再び會すべからざる最大快事として、非常なる興味を以てこの成行を見たのである。かく正金銀行は横濱に於ける生絲貿易に於て多年の義務を盡すを怠らなかつた。無論正金銀行は生絲貿易の増大に伴つて其大を來した。當然の義務とは云ひながらその決斷と敏速とにおいて、余は貿易復興會の理事長としてここに深く敬意を表するの至當なるものがあると思ふ。世界未曾有の大戦を経て、各種各様の研究を経たる結果一致と協調と生存との三點を必要とすることに歸著したるは、世上識者のともに

認識する所である。殊に今回の如き突差の事變に會し、復興事業を樹立する場合に於て、最も然りとす。正金銀行今回の美舉も、また此の意義を實行したるに外ならぬのであると思ふ。併し横濱復興の問題は、將來尙甚だ澤山ある。皆主として金融の中心たる正金銀行の協調と、共存共榮の態度に待たなければならぬと同時に、自餘の銀行も亦皆その態度を同うし、此と協調し合奏すべきは當然の事である。復興ならずして、金融業者獨り榮ゆるの道理なく、金融業者減びて、復興獨り成るの理なきは自明の理である。金融業は云ふまでもなく、株主の銀行なり、預金者の銀行なるに相違なきも、今回の如き災厄は、誠に人類に稀有の不幸なれば、この場合に於てその共存共榮の途に就くがために必要と認めたる行爲は、株主や預金者と雖も、その忍ぶべきを忍んで、滿腔の同情を表すべきである。若し彼等にして共存共榮の道理を忘れて、漫に自己の利益のみを主張するに於ては、これ同情なきものとして世上の擯斥を受くるは勿論その結果人を傷けて、自らも傷くに至るものと思ふ。今や共存の上に於ける同情の觀念は、その株式會社たると、公共團體たると個人たるを問はず、皆一様であり、この觀念を基礎とする奉仕の義務に就て、何等輕重の差なきものたるは多言を要せざるべし。余は横濱復興のために横濱に於ける金融業者は勿論、各種の事業家も、工業家も、皆その共存共榮の道を講ずるに於て吝かならざるを願ふて已まざるものである。(十二月二十四日 原富太郎氏述)

第二項 絹織物

一 輸出絹織物の被害

前記の如く市の生命たる貿易及市内商工業の大半は殆んど其の機能を失ひ、全市を擧げて塗炭の苦みを體驗したのであるが、次に本港輸出絹物貿易の被害も亦激甚を極めた。百數十人の輸出関係業者を始めとし、染色加工其他の從屬的營業者に至るまで殆んど皆全焼又は全潰の厄を被つたのである。被害程度の概數を示せば左の如くである。

一、輸出商問屋仲立製品業其他營業者四百三十五人	内	申告人員	百六十二名
		焼失價額(建物商品其他)	千參百萬圓
		火災保険	八百五十六萬圓
二、染色業者			五十二人

内	申告人員	十人
	焼失價額(建物機械其他)	百貳拾五萬圓
	火災保険	七拾壹萬圓
三、加工業者	内	二百人
	申告人員	三十人
	焼失價額(建物機械其他)	八拾壹萬圓
	火災保険	貳拾參萬圓
合計		千五百〇六萬圓
	火災保険	九百五拾萬圓

尙ほ之に申告者の被害高を加算するときは、恐らく前記の二倍に達するに至るであらう。當時經濟機關の殄滅によつて、忽ち貿易機能を絶止せしめ、前記の如く當港輸出品の巨擘絹織物及絹製品の輸出業者は、擧つて神戸港に遷り、同港より其の輸出を開始

(絹物織) 輸出織物の被害

するに至つたので、當港の輸出は茲に一大頓挫を來し、震災前壹億圓以上を維持した大貿易は、全然神戸へと移り、當港の輸出額は僅に其の百分の一にも足らざる悲境に陥つた。随つて數百の間屋仲立製品業及染色加工業の營業者に至るまで、陥々として神戸に赴き、残留者は震災前の十分の一にも達しなかつたと云ふ状態で、大勢は既に神戸に移らんとする形勢を示したのである。

今大正十二年九月一月より十三年三月に至る横濱港輸出額を見るに左の如くである。

(月)	(次)	(輸出額)	(前年同期)	(減)
大正十二年	九月	四、七八九〇 <small>円</small>	八、七二一、四八五	八、七二一、四八五
同	十月	一五二、二〇四	八、七二一、四八五	八、七二一、四八五
同	十一月	四七九、一一四	六、九八九、一三四	六、九八九、一三四
同	十二月	四四二、一三三	八、六三二、四〇四	八、六三二、四〇四
大正十三年	一月	五〇二、八二三	四、八三八、七一	四、八三八、七一
同	二月	六八九、〇〇〇	七、二六四、八六七	七、二六四、八六七
同	三月		八、四七九、三四二	八、四七九、三四二

絹物貿易の不振は、かくまで絶頂に達し、曩に神戸に移つた當業者も、漸次同地に馴れ自

然永住の傾向を生じたのであるから、それが復歸挽回の策を講せざるを得なかつたのである。
(横濱絹業復興會調査)

一 絹業の被害と復舊

横濱港輸出絹業者竝に之と密接の關係ある染色加工業者併せて八百有餘の罹災者は、店舗商品工場機械等、資産全部を失ひ、一時營業休廢の已むなきに至つた。其の窮苦は實に名狀することは出来ない。然れども横濱市と輸出絹業とは密接不離の關係あり、斯業の復活すると然らざることは、將來横濱市の財政經濟上にも至大の影響あるべきを以て、此際絹業者は非常の決心と絶大の努力を以て之が挽回を期し、一面市の復興を助成するの覺悟をもつて、九月十三日、二十數名の有志は、加藤平次郎氏邸に會合し、各善後策に付き、熱心に意見を交換した。其の結果、急速に組合員大會を開き、衆議に問うて、一切の措置を執ることに一決した。有志は二十數名會合して、直に檄を全市に飛ばし、同月十六日午後一時より、住吉町二丁目龜井商店焼跡に於て、組合員大會を開催したが、會するもの百七十名、何れも熱心絹業の復興を力説して已まず、又此際神戸港に絹業貿易の中心を奪はうとする一味の畫策を難んずる等大勢は期せずして横濱港復興の

(絹織物) 絹業の被害と復舊

大運動の序幕となつたのである。

宣 言

今回の大震災は當港貿易機關を全滅し、當港の生命たる絹業貿易に一大頓挫を來さしめたるは、洵に遺憾極りなし。而して之れが復活の遲速は實に當港貿易の死活興亡に關するのみならず、實に帝國輸出貿易の休戚に關する重大事象にして、國家經濟に影響する所頗る絶大なり。故に吾人は捲土重來の勢を以て、相互協力協同一致して、極力輸出機關の再開を促進し、速に當港絹物貿易の復活を期す。

大正十二年九月十六日

横濱絹物同業組合

組 合 員 大 會

然して横濱絹業復興會を組織すること等の綱領定款十二條を定め、猛烈なる運動は開始された。これらの復興策たるや、固より一二にあらずとはいへ、就中、焦眉の急なるものは、運輸通信・金融等の諸機關復舊、港灣の修理、倉庫の假設等である。是等の問題は概ね政府の施設援助に俟たねばならぬ。同業復興會の成立と共に、直に之れらの運動に著手する要あるを認め、更に十六日絹物組合大會の決議に基き、第一回實行委員會を

開いた。是に於て絹業貿易復興に就き協議を行ひ、各委員の熱烈なる演説の後復興案件の實行に關しては、總務部を設けて、一切の事件を敏速處理する事とし、一兩日中に落成する記念會館横の共同店舗で開業の件を協定し、日本輸出聯合會副會長たる松井氏に宛てて決議に對する電報を發送し、各員は全力を擧げて、一日も早く復興の目的を達成するに努力する事に決し、更に絹物組合は、その貿易復舊策に就いて協議の結果、共同市場を設けて、營業を開始する事となつたが、倉庫は生絲借受倉庫の一部を以て之に宛て、金融は正金銀行が極力應援することになつたので、當業者は頗る活氣を呈し、二十一日、上甲・出口・加藤・西田・龜井・秋山・笠原の諸氏、主務省に出頭し、絹物復興につき特別の方法を講せらるるやう陳情に及んだ。又神戸では既報の如く、十一日全國絹物聯合會を開催し、「横濱の災害には同情するも、絹物輸出は國家の貿易として一日も忽にすべからざれば、横濱の復興まで神戸に於て絹物貿易を行はんと」の決議をしたが、實際輸出した絹物は、小數の例外品に止まるも、絹物の輸出は決して一日と雖、安如たるを許さないので、陳情委員は、金融電報取扱運輸につき特に詳細陳情に及んだ。而して政府當局に於て考究中に屬するの言明を得たのであるが、一方外國商人の招致策は最も急務である。然るにこれら有力なる華客は、震災後住所を失ひ、衣食に窮し、止むを得ず他港に避難し

つつある有様であるから、此際内地罹災者と、同様に援助の方法を講ずるならば、相踵ぎて歸來すべく、従つて輸出貿易復活上至大なる効果があると、縷々具陳し、更に當時の流言即ち貿易機關の缺如せるを機とし、絹業輸出港を神戸に移さんとするの計畫あるとの事を訊した。而して由來絹業と横濱との關係は、數十年の歴史あることを述べ、必死の畫策運動を續けたのである。

諸機關の急設を要望してゐるうちに、川俣の羽二重業者は誠意を以て、全力を擧げて出荷すると叫び、それにしては輸送機關復活運動を熱望し、かくして震災後に於ける羽二重取引は、十月十三日、初の手合せが行はれたが、川俣から出演した當業者は、

我々は從來横濱と密接不離の關係を有つて居た次第で、一日も早く多量出荷をしたいのであるが、何分にも輸送力の貧弱な事に一番困難を感じてゐる。汽車便もせめて一車と纏まれば何とか都合が付くとの事ではあるが、夫れも今の模様では保證されず、現に今日(十三日)の取引の如きは、手荷物として辛うじて持つて來たやうな譯で、此の上は更に横濱絹業復興會の發奮に藉り、輸送力の復活を一日も早く實現するやう、夫を先決問題として希望する。

と物語つて居たが、輸送力の復興に就いては夙に絹業復興會の幹部に於ても、聯合會の幹部に於ても、聯合會の決議に因り、松井副組長から主務省への陳情あり。尙引續き促

進方に就き全力を擧げてゐるので、復舊設備も稍整ふたのである。

更に横濱絹業復興會では、十月十八日市復興會に對して左記の希望案を提出し

外人招致の方策を議せられ度きこと。

資金の融通を豊富ならしめること。

綿布倉庫建設を助成されたきこと。

加工染色工場の復舊を計られたきこと。

絹業試験場羽二重検査所の復舊助成を當局に懇請されたきこと。

と市復興會の援助を懇請した。

尙その後、に於ける羽二重相場の状態を見れば、原料生絲の反落含みから先安思濃厚となり、且つ産地の軟調入報もあるため、買人一般に日和見の姿となり、市場引續き不味沈靜を辿つた。

福井羽二重相場

(六付)

尺 八

一九、五〇

二 四

一九、四〇

絹 紬 松印 (十二匁付) 八匁〇五錢見當

(六半)

一九、三五

一八、九〇

(七付)

一九、六〇

一八、九五

(絹織物) 絹業の被害と復舊

北仲通六丁目廳舎跡に假事務所建築中の縣立羽二重検査所は、同工事竣成を告げたので、愈、十月二十七日から、同所に於て輸出羽二重の検査を開始し、染色捺染並に錫量施用等に關する届出及申請を受付けた。因に福井金澤の羽二重相場は鐵道の開通並に横濱手形交換の開始等によりて、漸次活況を呈して來た。

尙ほ當時の參考として、福井縣輸出羽二重検査所に於ける羽二重検査高を述べれば、十月一日より二十二日までの羽二重検査高は、總計六萬七千六百六十四疋で、前月同期に比し、一萬八千二百十五疋、前年同期に比し、三萬八百疋の増加を告げて居る。検査の主なるものは、平地類の四萬四千六百四十八疋で、絹紬一萬九千六百二十三疋、縮緬二千九百六十九疋である。斯く増加した主因は、這般の大震災で一時各機業が生産を手控へたが、その後神戸港から輸出さるることとなりて、思惑筋の買進み等で取引股賑を極めたので、採算有利となつた爲め、俄かに生産を急いだ結果であるが、最近に至つて、買物一巡と共に、市價低落も生産過剩から消滅産の傾向を示して居る。

かくして種々なる支障を重ね、一難去つて一難來る、困難の裡にも動せず、施設につとめ、横濱絹布倉庫の復舊工事が進捗するに伴れて、絹織物保管も充分となり、小口代用車扱ひが實施されて、漸く横濱へ向け絹物の殺到すべき筈であつたのに、兎角出澁り勝で

ある。随つて横濱絹物市場が神戸に奪はるる如く考ふる氣早速もあつたが、實は福井・金澤等に於ける運送業者が荷物の紛失盜難を恐れ、一方銀行業者も大事を取つて、盜難保險を附した上ならでは、横濱へは送らぬと云ふ事になつてゐたので、斯く荷動きが少なかつた原因の一である。然るに十一月初旬、福井の森田銀行倉庫運送部が横濱絹業復興會に見え、既に從來通り絹布倉庫の荷著案内書で正金住友十五興信の四銀行が取引を開始して居り、更に第百銀行支店が從來の慣例を捨てて、これに飛入りして活動せんとする實況を知り、其復興の速かなのに一驚して歸つた。一方二十二日には、加藤委員長が金澤に出張して、諒解を求めることになつたから、最早盜難保險の如き取扱ひ方はなくなると見られて居る。夫れに東北線も客車扱を再開することになつたから、横濱絹業市場へ貨物の集中するのは餘り遠くあるまいと思はるるが、絹業復興會では之に應ずるため、曩に絹布倉庫へ復舊費を貸與し、二十室の修覆を急がせて、十一月末に完成することになつた。而かも一時荷受けさるるまで、當業者には便宜使用を許す計畫をなし、此の間各銀行とも諒解が成立し、最早絹物の殺到しても少しも困らぬ様に準備が整ひたれば、荷動きの方が充分になるにつれ、横濱絹業界は意外な活氣を添ふるものと一般に觀測されて居つた。

今次の震災に因り、過去六十年間帝國唯一の輸出港たる横濱港は深刻痛烈なる慘害を蒙り、忽ちにして全市焦土と化し、其の生命たる絹業貿易に關する諸機關を擧げて烏有に歸せるは、洵に痛嘆に堪へざるなり。然れども我絹業者は炎々燃ゆるが如き愛市の熱情と、絹業の隆運を希ふ切々たる至誠とにより、今や捲土重來決死の覺悟を以て、斯業の復活を畫し、臨機應急の施設に向つて腐心焦慮罷在候。惟ふに未曾有の震災に遭遇せる今日、國家として施設すべき事項素より多々あるは勿論なりと雖、輸出貿易に對する施設に至りては最も重要なる生産的施設にして、依りて以て外資の流入を促し、國幣の缺乏を補填する所以なるが故に、輸出貿易機關の復活を計るは現下喫緊の急務なりと信じ候。今や横濱に於ける凡百の貿易機關悉く滅失し、當業者は其恢復に必死の努力をなしつゝありと雖、獨り當業者の力のみを以ては其の復舊至難なるを以て、茲に爛頭焦眉の急務として、政府に於て至急機宜の措置を講ぜられ度懇願する次第に有之候。依りて絹業貿易の見地より、政府の施設を請ふべき案件尠からずと雖も、就中急施を要するものを左に掲げ緊急御配慮を請はんとす。

- 一、商業資金の融通に關する特別援助。
- 二、内外運輸通信機關の應急的施設。
- 三、港内繫船設備及び物揚卸場の急設。

四、商品保管倉庫の設備に關する援助。

五、外國商人の爲めに、假店舗並に假住所設置に關する援助。

六、火災保險金支拂方に關する解決促進。

七、絹業試験所及國立検査所の設置。

以上の諸項中多くは政府當局に於て已に御考究中に屬するは、當業者の洵に意を強うする所なりと雖、此際外國商人招致に就て適當なる施設をなすは、最も急務と信ず。蓋し横濱在留外國商人は我絹物貿易上最も有力なる華客なりと雖、震災後は住所を失ひ、衣に窮し、止むを得ず、他港に避難しつゝあるの状態なるをもつて、此際内地罹災者と同様、彼等の爲に假住宅を供與し、假店舗をも受けしむるが如き、或は一時艦舶等を提供し、之に居住せしむるが如き方法を講ずるに於ては、彼等は相踵いで歸來し、茲に輸出貿易復活上至大なる効果あるのみならず、將又外交政策上極めて良好なる影響を與ふべきは火を睹るより瞭なり。之れ吾人が特に政府の御援助を需むる所以に有之候。仄聞する所によれば、横濱に於ける貿易機關の缺如せるを機とし、絹業輸出港を神戸に移さんとするの計畫ありと。是實に帝國絹業貿易上無謀の計畫なりと謂ふべし。由來絹業と横濱との關係は過去數十年間の沿革歴史を有し、假令一時貿易機關を失ひたりと雖、絹業の根柢は頗る深く、到底横濱より他に移し得ざるものあり。即ち數十年間に亘り豊富なる經驗訓練を有せる多數の當業者は、依然として此地を去らず、加ふるに斯業に缺くべからざる補助

機關たる染色工場に在りても、尙有力なる者殘存し、且つ絹物加工業者の多數は、依然横濱に殘留せり。而して一般貿易機關の復活すると共に、是等絹業補助機關は立所に再開し得べきをもつて、他港に於て新に絹業に關し、必要なる諸機關を整備するの努力に比すれば、其難易固より同一の論にあらざるなり、如斯絹業は横濱港に離るべからざる關係にあるに拘らず、急遽之を他に移さんとするが如きは、國家貿易上不利甚だしと謂はざるべからず、況んや絹業と密接不離の關係を有する生絲市場の依然横濱に存在するに於てをや。

叙上の次第に有之候間、政府に於ては從來一貫せる絹業政策により、横濱港を絹業貿易の中心とし、前記諸次に關し、深甚なる御配慮を賜はり、速に絹業貿易の復活に向つて、當業者の努力を御助成相成度茲に絹業關係者を代表して、謹で奉懇願候。

大正十二年九月二十五日

横濱輸出絹物同業組合

各 大 臣
知 事
市 長 宛

かくして、大正十三年五月下旬には、社團法人日本絹業協會を設立し、輸出を奨勵すると同時に、常に當業者の指導誘掖すべき中心機關を設け、國家の政策と相俟つて益、斯業

の進展を期した。抑も帝國主要の貿易港たる本港は、曩に曠古の大震災を被り、其慘狀頗る深刻を極め、惹いては貿易機關の衰退を來し、多年輸出超過港として貿易上の均衡に寄與せし當港の機能も、今や全く壞頽に歸したのであるから、貿易の運営上支障尠なからざる狀況に在るので、之が恢復を計り、諸般の設備竝に其の機能を完ふするの急なるを知り、絹物貿易の復興と共に、横濱港の復興を促進する主旨を以て設立し、會長原富太郎氏より全國に左記の檄を發し、漸く横濱絹業界も常軌に復するのみか、益進展して、今日の復興を見るに至つたのである。

謹啓盛暑之候益々御清祥奉大賀候。

却説、方今我國經濟上の憂患たる輸出入貿易の逆勢を轉回し、國運の隆興を期さんとするは、夙夜何人も顧慮しつゝある刻下の急務にして、其の施設固より一二に止まらず候得共、畢竟輸出の増進に俟つより外無之、而して我が輸出工業品中重要視すべきものゝ多くは、原料の供給を海外に仰げる實狀なるに反し、内に豊富なる原料を有し、外に無限の需要を有する重要貿易品としては、獨り吾が絹織物あるのみと、稱するも過言にあらず。又た其の需要の範圍は世界各方面に亘り、生活上の必需品として歡迎せられつゝある狀況に有之候得共、本邦に於ける商工組織の不備なるため、其の發達遅々として振はず、却て原料の供給豊富ならざる佛、伊、瑞の如き、若くは原料自給

(絹織物) 絹業の被害と復舊

の絶無なる米國の如き諸國に比し、甚しき遜色あるは洵に遺憾とする所にして、更に一段の努力研鑽を要すること勿論の儀と確信罷在候。本協會は斯かる有望なる貿易品の發展を企圖し、益々輸出の増進を計らむがため積極的施設を遂行すべき大使命を帯びて、今回新に成立したるものに有之、當面の急務としては、昨年大震災に罹り、曠古無比の大打撃を被りたる横濱港、即ち多年絹物貿易の發祥地として歴史的關係ある重要市場の復興に努力し、尙將來斯業各般の施設に對し、充分なる研究を重ね、一面國家の政策と相俟て、所期の目的を貫徹致度所存に御座候。就ては多方面の知識を網羅し、其の協力援助に俟つの必要切なる次第に有之、隨て斯業に對する關係の直接たると間接たるを問はず、可成多數會員の御加入を熱望する處に御座候間、何卒奮つて御賛同被成下度幸に斯業の發展に寄與し、延いて國家經濟の上に幾分貢獻することを得ば、當に當業者の幸福のみに止まらざる儀と存候。先は御依頼のため、寸楮如斯に御座候。敬具。

大正十三年八月 日

社団法人 日本絹業協會

會長 原 富 太 郎

十二月二十四日の記録に依れば、生絲貿易が殆んど元通り横濱に復歸すべき事は明瞭になつたが、生絲と共に横濱に取つて重大な役目を勤めて來た羽二重貿易の方はど

うなるであらうか、試みに神戸並に横濱に於ける羽二重の直輸出商及び賣込問屋の現勢を見るに、震災前横濱に於ける輸出絹織物組合の組合員は、四百三十人あつたが、現在に於いては横濱に止まる者、直輸出商は、同志貿易會社ナポルツ商會、西村ウイソン商會(以上匹物)、加藤合名、松浦貿易店、大和商店、伊藤惣商店(以上加工)、尙ほ大同貿易、三菱商事、江東貿易(以上匹物)及び野澤輸出商店(匹物)及び加工、賣込問屋は、龜井小野、石岡三木、伊藤笠羽森(以上匹物)の各商店、森富成田、梅原(以上加工)の各商店、小賣商店は、後藤、山本、細目、關其他小口十商店、染色業者は、秋山美和、秋葉の各商店、加工業者は、伊藤、彦坂、水野、其他裁縫、刺繡、寢巻製造業者數十名、即ち合計して横濱に止まり居る者八十餘名で、神戸に走つた者は、直輸出商は、三井物産、堀越商店、高島屋、野澤組、鈴木岩井各商店、南洋貿易、熊澤商店、其他十二店(以上日本商店)、外國商館は、ストロング、ウイット、コースキ、ローゼンソールド、外十五名(以上歐米人)、アッスムル、ペンマル、ゴバイ、外十八人(以上印度人)、賣込問屋は、西田、磯部、澤田、共益商會、波清、能井、龜井、岡島、油井、森村、外六十八人、此の中には横濱神戸兩方で商賣方に乗せた即ち合計約百四十名で、神戸に移轉營業しつゝあつて神戸在來の絹物商、夫馬商店、京都に根據を置く澤村、高田の兩商店に、大幸貿易の四商店等と共に絹物貿易に従事して居るが、大勢は勿論横濱から移住した商人が左右して居る状態だが、移住商人中で

(絹織物) 絹業の被害と復舊

三井物産高島屋南洋貿易などは、近く横濱に歸ることに確定して居ると、外國商館側の全部も早晚横濱に歸るべく、たゞ時期の問題と見るべきで、神戸には染色加工設備不充分で、同市少數の加工屋には注文が殺到するも、一向間に合はず、爲めに横濱に歸つて始めて其の全きを得る所以である。尙ほ横濱に残つた八十餘名に、神戸に去つた百四十名合計二百二十餘名を差引いた横濱舊組合員の残り二百餘名中には、印度商人の死亡者五十名、行方不明者、外國商人の本國に歸つた者、及び日本人の休廢業者を含むのである。目下の現勢では、十三年三・四月頃には歸濱し、十三年中に復舊の豫定も立つた。中にも神戸に踏み止まれる者の多少は生ずべく、生絲と比較して全然復舊は不可能なるべきも、何等の悲觀を要せざる状態になつた。

第三項 その他諸貿易業

本市眞田業も等しく災害に遭遇し、九月二十日には横濱眞田商同業組合臨時大會を、同組合焼跡に於て開催して、滿場一致で左の議案を可決した。

- 一、横濱眞田同業組合假事務所及び假検査所當業者假營業所を元組合事務所跡へバラックで建築する事。

- 二、一日も速に横濱に於ける眞田の製造及び輸出を開始すべく、適當な手段を取る事。
- 三、前記第一第二の實行は擧げて委員に一任する事。

委員長常任委員を選擧し、バラック建築は事務所検査場、假營業所等總坪百五十坪とする事となつて、夫々復興の途に就いた。

次に綿布貿易同業組合も同様九月二十四日、花咲町二の假事務所に於いて組合員大會を開催し、復興策に就いて協議する事となつたが、同組合員は共同事業經營の目的で、建築材料供給方に關し、縣市當局に陳情する所あつた。(横濱和業協會調査・横濱市日報)

参 考

一 貿易業者震火災損害高 (大正十三年三月調)

業 別	(損 害 金 額)		(保 險 金 額)	
	業 別	金額	業 別	金額
蠶 絲	九八、四七九、一二一〇三	四	九四、四一三、〇三〇〇〇	四
絹 織 物	二〇、五七六、五五五七五		九、九〇九、八〇〇〇〇	
雜 貨	三、四〇二、六六一〇〇		二、九五六、三七九〇〇	
綿 布	八、〇九一、六五七・一四		五、三三二、三四七〇〇	
眞 田	二、〇八八、五六二、四九		六六二、五〇〇〇〇	

其他諸貿易 貿易業者震火災損害高

陶器	漆器	海產	織物	織物	青物	包物	砂物	絹物
及美術	乾物	加染	裝箱	糖衣	箱物	箱物	箱物	箱物
計	計	計	計	計	計	計	計	計
三、八二三、七一八五	一、五三七、八四〇〇	一、二四、〇〇〇〇	二、〇三七、〇三三、〇四	八二四、四四〇〇	一、二二八、三三五〇	八八一、〇〇〇〇	三〇〇、〇〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇〇
一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇

二 震災前後横濱神戸港貿易比較

復興年	大正十三年	震災年	大正十二年
輸	輸	輸	輸
入	出	入	出
六、七二、三八四	六、三三、八四四	一、三〇八、二二八	六、六八、六一一
五、八〇、二九三	一、一七〇、〇三九	一、七五〇、三三三	三、五七、一一二
一、二五二、六七七	一、八〇五、八八三	一、〇二五、七二三	一、五二三、一八四
一、八〇六、八一〇	二、四五一、八一〇	一、四四七、七五一	一、九八二、二三〇
計	計	計	計
一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇	一一五、四一九、六五六〇〇

三 輸 出 表

平常年	大正十一年
輸	輸
入	出
八、九五、四三二	六、五二、一五四
二、七九、八二一	八、五六、三五七
一、一七五、二五三	一、一三六、一七八
一、六三七、四五二	二、六八三、七六四
計	計
一、八九〇、三〇八	三、五二七、七六〇

生絲	羽子	絹織	琥珀	縮緬	縮緬	縮緬	蠶絲	麻織	線織	毛織
生絲	羽子	絹織	琥珀	縮緬	縮緬	縮緬	蠶絲	麻織	線織	毛織
三、八九六、〇三三	五、二九八	一、六六八、九	五、五三三、五	一、六六八、九	四、八八六	一、七〇〇、〇	五、三三三、六	六、四四七、五	五、一〇三、三	八、〇〇〇、〇
四、四三三、四	四、三〇、〇五七	五、三三三、五	四、三〇、〇五七	四、三〇、〇五七	四、三〇、〇五七	四、三〇、〇五七	四、三〇、〇五七	四、三〇、〇五七	四、三〇、〇五七	四、三〇、〇五七
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一、九六六、七〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇	一、〇二五、三〇〇

震災前後横濱神戸港貿易比較 輸出表

羊 砂 小 小 鐵 木
毛 糖 麥 粉 材 材

二六、四四
一、六八九
六三、四九
二九、九〇
六、〇〇〇

二、九三八〇
一、〇八、九五
四〇、二七九
二九、九八八
六、五七、二〇
二、〇八、三三〇

一、三三、三〇
一、〇四、四五
三三、三三〇
二六、三三〇
三六、七六
二、〇八、三三〇

三、八七、五二五
九、七、八六〇
二、〇八、九五
三、六、〇〇
三、三、四一七
二、〇八、三三〇

一、六、三三
六、九六
六、六〇
六、八八
七、二〇
七、五〇

三、〇、五五二
八、七、〇一
四、八〇、三六
五、九、九
八、八、四、八五
七、五〇、五〇

三九〇

(本市商工課調)

第二節 工 業

第一項 市内工場の被害

本市の工場は、大正八年以後、一時減少の傾あつたが、爾後漸次増加して、震災直前には、大小を合して實に五千七百二十五を算するに至つた。然るに今次の震災に因りて、大多数の工場は、全焼・全潰殆んど全滅の状態を呈したのである。焼失二千六百九十三工場の外に、残存したるものあるとは云へ、唯名のみにして、其の使用に堪へざるものである。是に於て、全く工場も一時中絶の止むなきに至つた。直に解散を宜する者或は廢業休業又は轉業するもの等頻出して、眞に悲惨の状況であつた。従つて失業者三萬七百人の多きに達した後表参照。工場被害に伴ふ職工等の死傷も多く、幾百人幾十人と數を並べて、豪壯なる建物の下敷となつて、壓死或は焼死した。

本市は震災直後、市内工場及事業場に於ける其損害額と被害程度を知る爲めに、従業者二十人以上の工場を標準として、左の工場數に因つて、實地の調査を開始したのである。

工場

種別	(工場建物)	(事務所)	(機械)	(原料)	(製品)	(保険金額)
染色工業	一七四〇三六	六四三〇九	二四七二七	一四八六六	六〇四七	六七九六〇〇
機械及器具工業	三六五九五六	三三三三九	四二〇四三	二五八三三	三三七九〇	八〇五七九〇
化學工業	二七三〇五八	九八四八	三二五三三	一四六〇九	一七八六六	二二六〇六四
飲食物工業	一三九七六一	一〇五五五	九四一〇五	七六六八	六〇九一七	三三三〇〇
雑工業	一九八三七	五五九四	一九三〇八	三〇八〇三	二七七九七	九三〇九〇元
特別工業	三九五五	一一八五	一一三六〇	四〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一九八〇〇
(計)	一六六九五五	二〇四三三	三九五〇五	八四六六二	九二四一六	三六八四六〇四

(但し機械及器具工業に於て、横濱ドック會社は表中に加算せず)

遡つて本市に於ける震災前の工場数を案ずるに、

染色工業

四八八

機械及器具工業
化學工業
飲食物工業
雜工業
特別工業

三三九
一九三
一、一七九
八二五
二

であるが、前表に依つて、本市工業の總損害額は、概ね推定することが出来る。即ち、

事業	製品	機械	原料
製	品	料	品
	貳千參百四拾六萬圓	六千六百七拾五萬圓	四千七百七拾九萬圓
		四千九百五拾九萬圓	

として、貳億四千參拾四圓の巨額に達するのである。

次に工場の焼失數と失業者數を擧ぐれば左の如くである。

種別	(染色工業)	(災害前の工場數)	(焼失工場數)	(使用者數)
織物染色整理精練	三二		二四	二六五
捺染	二二		一八	一八〇
西洋洗濯	八二		七八	三九五

工場の被害

三九三

市内工場の被害

人石染薬蠟製製漆煉硝陶	雑鉄電鑄鐘釘
造料 肥塗	工
料鹼料品燭油革器瓦子器	金場線物類子
(化 學 工 業)	(計)
(災害前工場數)	
二六五三二二五一一六一八三七五九	三一五〇一三八四二一三三四
(燒失工場數)	
二二三二二二一七一五七	二四四一四一三三三七三
(使用者數)	
二九七五〇〇二四六〇二〇二六五八五七〇二〇一一五二八〇	八三三五三二〇九〇一〇〇一四〇二九五七〇

三九五

器車船造機	織紡製莫襪絹其リ卓手其染
船修	績及加工 大 綿寢衣及著 刺
具輔理船械	物絲綿小衣物場繡掛掛物張
(機 械 工 業)	(計)
(災害前工場數)	
二六三六一二二六八七	四八五 一七一 四二 三三 八五 四〇 四 二二 二七 四九 六八
(燒失工場數)	
二〇三一 一五 一五 六八	四三〇 一五 二二 二七 二二 八二 三九 三 二二 二六 四七 六八
(使用者數)	
三六〇 二二〇 四六五 三九三〇 一〇五五	四一六〇 一三〇 二八〇 二八〇 四八五 二四〇 二〇 一一五 一七〇 二四〇 二〇 四〇

三九四

市内工場の被害

製製本家製紙印
箱樽製工
桶製製
帽綱類具紙品本

(雑工場)

(災害前工場数)

(焼失工場数)

(使用者数)

一三二 二三八 三三二 三三六 五五五 八二二
一三二 三三二 二二八 六五五 七九九
一三〇 六〇〇 三七〇 二二〇 三三〇 二八五 八五〇
一三〇 六〇〇 三七〇 二二〇 三三〇 二八五 八五〇

三九七

種羊西清麴豆製煎蒲生雜
菓食料罐
洋食物煮蒟
菓子詰物弱腐麴豆類箱

(計)

一、一七八
一四六 二二九 二七二 一五一 三一五 五六六 六三六

一、〇四一
一四四 一五〇 八二二 一三二 二六四 九四三 六

五、〇六〇
七〇七 二五〇 四〇〇 一〇〇 一五二 一〇〇 二五〇 五五五 一五〇 三〇

和麥醬精精製飲製菓麵煎飴
酒啤蜜穀麴水菓子餅
油糖味
粉粉

(飲食物工場)

(災害前工場数)

(焼失工場数)

(使用者数)

六七二 二二二 一三一 一四四
二八〇 八〇六 二〇二 二〇二
六〇一 一九一 一
二二九 七五七 一
一六〇 五〇〇 二、四〇〇 一五〇 二五〇 二〇〇
一一〇 一二〇 一二〇 三七五 三五五 一六〇 五〇〇 二、四〇〇 一五〇 二五〇 二〇〇

化骸ア護雜
粧
炭品
製
品

(計)

一九四 一九三 二二二 二二二

一五〇 一八三 二一 二

四、四〇五 一三五 二八〇 一五五 一〇

三九六

類焼をも免れたので、引續き作業を繼續するを得た。尙前記倒潰の建物は、目下復舊建築中に屬し、且つ震災後は一時總ての建築物が永久的のものを必要としなかつたのであるから、昨年末まで從來の本業を休止して、バラック材料の加工を引受けてゐた。最近本建築の勃興につれ、櫛製品は、震災地域に其需用も起り、該社の復舊に伴ひ、他地方の從來の得意先より注文があるので、作業は現在多忙である。震災前に比すれば尙幾分の遜色は免れない。將來の見込としては、最近の建築界が漸次歐風若くは歐風を加味する様式を採用するは、著名の事實に鑑み、櫛製品が建築材料として、耐久美觀保健の特質を有する點より見て、將來の需要は益増大すべく、特にコンクリート床上に嗜好せる該社の創製品なるフローリングブロックは、鐵筋コンクリート建築物の増加に伴ひ、需要を喚起して居る。

二 青木町伊東組製材所

震災に因り、全部烏有に歸し、爾來營々として復舊に努め、且つ創業以來の實驗を基礎とし、種々設備の上に改善を加へ、目下震災前に優る設備と、製材能力を持つてゐる。即ち震災以後、バラック建築用製材のため、市内に製材業を營む者續出したのと、海外より

輸入品過剰であつたから、市場に於ても消費されない。尙ほ一方財界の不況益、甚しいので、遂に製材業界は現在の如き苦境に陥つた。近時製材業も漸次整理され、往時の如く其數は多くなくとも、近き將來に於て恢復する見込である。製材業者は如上の情勢に鑑み、大いに前途を慮り、新しい營業方針を立て、大に復興建築に力を注ぐ要ありと信するのである。

三 青木町字鶴屋町日本ベニア製材株式會社

大震災に遭遇して、全部焼失し、目下再建計畫中である。該會社として震災に因る打撃は甚しく、其復興に多大の苦心を要するので、未だ開業せず、僅に木工部の一部分の運轉してゐるだけである。然し軍事品の需要に應ずる爲め、其の復興は一日も疎かには出来ないが、何分大資本の固定を要するので、政府の援助を切望するのである。尙ほ將來の見込は、飛行機用としては、今後益増加すべく、其他車輛船舶等に震災後、東都の本建築開始と共に、西洋建築の増加竝に震災後一般的に廣く其利用方法と、各種の特徴を知るやうになれば、最も合理的なベニア板の益増加するは明瞭である。

四 西戸部町八六二、日本加工織布株式会社横濱工場

過般の震災に遭遇して、本社及横須賀工場は焼失した。會社の主要工場たる當工場は、倒潰及傾斜等相當損害あつたにも拘らず、幸ひ類焼を免かれたので、極力復興に努め、九月下旬より作業を開始した。目下殆んど震災前に復舊した。

五 神奈川町浦島丘一四六〇、日本カーボン株式会社

大震災に因り、第一第二竝に鶴見工場は破壊し、現在第三工場を以て主要工場としてゐる。電氣用カーボン製造工業は電氣事業の必須材料に屬し、年々需要増加の傾向を有し、特に本邦の如く天與の發電水力を有する國にあつては、之が開發利用と共に火力發電の増加と相俟て、益、本工業の發展を誘起するものと思はれる。震災前に比し震災後は需用も増加を呈してゐる。

六 神奈川町柳町一〇五五、日本光機工業株式会社

震災の被害も僅少にして、工場施設機械竝に、製品の小破と建物の一部倒潰傾斜した

るとに止り、製造能力に多大の變化なかつたので、引續き就業し得たのである。

七 末吉町一ノ一二、日本製菓株式会社

震災に因りて全焼後、整理に著手し、二月二十八日より事業を開始するに至つた。設備縮少の割合に、需要増加の傾向を來し、今日に於ては、日夜生産に逐はれ居る状態で目下は、パン類の製造は中止して居るが、遠からず設備の完成を得ば、事業に著手の方針である。

八 根岸町字大芝一五八〇、日本キッド株式会社

昨年震災に罹り、又々多大なる打撃を被り、經營頗る困難である。將來業務の發展と共に、海外輸入品を防遏し、進んで支那滿洲東部露西亞等に重要な輸出品となすべく諸事計畫中である。

九 新浦島町、日清製粉株式会社横濱工場

罹災に因り、工場少なからず打撃を被りしも、大なる變化なく、目下著々事業を進捗中

である。

四〇四

一〇 守屋町二丁目三四一四、東京搾油株式会社横濱工場

震災に因り、工場倉庫等全潰したが、僅かに火災を免かれたるを以て、九月下旬より復舊工事に着手し、本年一月より事業を開始した。

一一 神奈川町一一九〇、東海鉛管株式会社

震災の影響を被り、十二月四拾萬圓に減額した。

一二 久保町一九七、東洋電機株式会社横濱工場

震災後に於て、工場全潰に伴ふ復舊工事に數箇月を費し、其間東京及横濱電氣局の臨時電動機修理に従事したが、今日は平常に復し、事業繁忙である。

一三 太田町四ノ六二、合名會社大川印刷所

震火災に因り、諸記録は焼失又は不明となつた。一般實業の盛衰に伴ひ、斯業も此影響を被れるは、當然の事で、今日より俄に將來を卜し難いが、今後労働者の工賃増額等の

要求頻々たる一方、注文者側より價格低下の要求を受け、同業者競争を惹起し、經營困難に向ふことは明かである。

一四 南吉田町二五、横濱紡績株式会社

昨秋の震災までは、事業は多忙であつたが、震災のため、工場は倒潰し多大なる損害を被つたので、災後は休業の止むなきに至つた。

一五 神奈川町一四〇八、横濱製綱株式会社

震災に因り、財産の半數を失ひ、現今災前の約半數を復舊し、事業を開始してゐる。

一六 中村町四二一、横濱亞鉛鍍金株式会社

震災に因り、工場全焼に遭ひ、残存製品は全部掠奪せられ、多大の損害を被つたが、震災後は亞鉛板の需要激増せしに刺戟せられ、従前の地に應急的工事を施し、事業を開始した。尙ほ災後は一般建築に多大の需要を來し、殊にバラック建に於ては著しく成れり。此の状態より推察するときは、將來本建築の際に臨みて益、多量の需要あるは當然と認

むるのである。

一七 林町一、横濱工作所

震災に因り、甚大の打撃を被り、資本金を參拾萬圓減少し、以て事業の維持を圖つた。

一八 平沼町三ノ三四、横濱護謨製造株式會社

震火災に因りて、其の設備を失ふに至るまでは、日々其進展を示し、日本に於ける需要の三分の一を充すに達してゐた。されど災後の市場は尙安定を見るに至らぬ。

一九 長住町三、横濱船渠株式會社

震災に多大の損害を被りしため、資本金五百萬圓に半減して之を償ひ、極力復舊に努めたる結果、今日にては、災前同様の工場能力を發揮するに至つた。當今海運界は一般不況を免れざるも、本邦近海航路は、多少活況を呈し、小型船の需要は相當之を期待し得べく、陸上諸機具、諸建築は最近本市の復興により、建築材料、鐵橋、梁等は、相當之を期待して居る。

二〇 岡野町、横濱魚油株式會社

大震災に遭遇し、準備も計畫も悉く水泡に歸したのであるから、更に本年二月、資本金五萬圓を以て、社名を繼承し、之を再興した。而して舊取引先よりは特別の引立を受け、業務急激に發展して居る。

二一 住吉町一ノ一、多勢薄荷工場

震災のため、横濱市内の薄荷は、全部焼失のため、現品の大缺乏を來し、之に海外需要旺盛のため、漸次價格の騰貴を誘致し、震災前に比して、約倍額となり、従つて昨秋の產品は、今年五月までに、殆んど全部輸出されし如き狀況にして、需要年々増加の傾向があり、將來益、有望を期してゐる。

二二 新浦島町一ノ一、大日本人造肥料株式會社横濱工場

大震災の際、火災に罹り、工場の大半は焼失した。震災前に於ては相當の製造能力を有し、業態良好であつたが、震災後は少量の完全肥料を製造し居るのみにて、震災前に比

しては雲泥の差がある。

二三 青木町北幸町三四九七中山亞鉛鍍金合名會社

震災のため工場倒壊の厄に遇ひ、災後更に再建築に着手し、十三年末に漸く工場機械の据付を完了し、十四年一月より開業の運に至つた。震災後ブラック建築用として、亞鉛板の需要劇増し、本品の將來極めて有望である。従つて注文も一時に殺到し、會社設備の全力を注いで之に應じたが、目下稍鎮靜の氣味で、震災前の状態と殆んど大差なきに至つた。

二四 大野町二浦賀船渠株式會社横濱工場

震災後十四年一月に入り、復興材料其他の入津輻輳し、各入港船は、諸材料品を満載し、入港船激増したため、貨物船の不足を生じた。之より先き震災によりて船は焼失減少の結果、一層の不足を感じ、各回漕業者の需要を喚起し、船運送貨は未曾有の暴騰を來した。爲めに船建造を企る者漸く多く、各造船所は之れが注文を引受け、一時的活氣を呈し、震災前に比して幾分の多忙を極めた。

二五 守屋町一ノ三三四一三倉田組鐵工所

震災後は、工場整備に力め、昨十三年中旬より營業を開始した。震災復舊のため、一時横濱港入港船舶激増し、船舶修繕工事は繁忙を極め、輸入關稅復舊後は、入港船激減し、船舶修繕工事は一般に閑散に向つた。船の建造も一段落となり、尙陸上工事も必要なる最小限度の施設の外は、之を差控えるの狀態に在る。一般物貨の安くないのは、斯業に對する需要を抑制するからであらう。財界の不況が持續する間は、此處數年斯業の最も困難な時であらう。

二六 北方町泉三五八葛谷製紐合名會社

震災に因り、工場焼失したので、建物を新築して、十四年一月末より事業を開始した。製品は大部分支那に輸出すべきもので、製品の需給關係は、重に支那經濟界の消長に支配せらるるは言を俟たない。目下支那は國內動亂の結果、本社輸出にも至大の影響ありと雖、從來の歴史から考察するときは、其時期永からざる可しと確信し、目下依然事業を繼續してゐる。

二七 淺間町五〇三株式会社彌富商會

大震火災に因り、工場建物、倉庫設備、貯藏品等は全然灰燼に歸した。而して其後は専心努力の結果、十三年十一月中に製造品の産出販賣をなすに至つた。

二八 南太田町一六三一、眞葛合名會社

震災に因り工場を破壊されたが、其後は是が復舊に努力の結果、本年五月設備を完成し、事業の復興を見るに至つた。尙今後の發展を期し、目下登り籠なる理想的設備を起工中である。震災前は産額の二割位だけが内地の需要であつたが、復舊後、日尙淺いために海外輸出は目下の所、殆んど休止してゐる。之に反し内地の需要は、目下注文増加を來し、之が供給に多忙である。本品の如き特種美術的工藝品は、工場復舊の宣傳さるると共に、回復の見込であるから、工場完成に専心努力して居る。

二九 青木町北幸町三四七九、京濱製鋸株式会社

本社は元日本鐵鋸會社であつたが、震災に因りて焼失し、殘存機械、其の他の設備を使

用し、其の名稱を改め、現在に至つたのである。

三〇 西平沼町一四四、古川電氣工業株式会社横濱電線製造所

大震災に因り、工場の殆んど全部は烏有に歸した。其後迅速之が復舊に努力した結果、今や大半復舊し、一部の工事も著々進捗しつつあれば、竣成の曉は震災前に勝る大工場となるであらう。

三一 岡野町二九、藤井製油所

震災に因り、工場破壊休業の止むなきに至つたが、同十月より更に同所に現在の工場を建築し、魚油の精製業を開始した。震災後諸設備の未完成と、運輸機關の缺乏等に、因り、輸出の大部分を神戸に占有せられ、著しく取扱高を減少した。然し乍ら最近一般の興と、本社設備の漸次完成に赴くので、各方面よりの注文は非常に多くなつた。

三二 本町六ノ七六、風月堂

震災によりて工場焼失し、之が復舊に著手し、大正十三年十二月廿五日、事業を開始す

るを得た。當工場は市内の需要に應ずるを主としてゐるので、市内の復興に従ひ、生産亦増加の傾向ありと雖、之を震災前の本工業生産高に比較する時は、僅に其の半額に過ぎない。

三三 南太田町二〇四八、秋山染色工場

震災に罹り、工場の焼失は免れたが、大破損を來した。是が復舊工事著手に努力の結果、十二年十一月完成を見るに至つた。災前の華客たる外人等は神戸方面に移住し居るの結果、同方面の工業家等に事業を脱取られた状態で、復舊の宣傳に努め、今日に於ては災前の約六割までは回復したが、尙ほ四割は震災前に比較し産額を減じ居る。

三四 南吉田町二一、榊原製綿紡績工場

震災に遭遇し、工場全部烏有に歸した。大正十二年末から本業の復興に努め、營業繼續を企畫し、組織を合名會社に革め、其の資本金を五萬圓とし、作業上最も必要な工場及倉庫、事務所、營業所等を新設し、諸機械數臺を新に据付け、本業を開始するを得て、今日に至つた。

三五 伊勢佐木町二ノ一七、合名會社龜樂商店

昨秋の震災に影響を受けて、工場の全焼に依り、目下假建築にて事業を開始したが、震災前の賣行を見るまでには、尙相當の努力を要する。

三六 山手町一二三、麒麟麥酒株式會社横濱工場

震災に因りて、横濱工場は罹災したので、其後地を變へて復興に努めつゝある。

三七 山下町一一六、ジャパン冷蔵製氷株式會社

大震災に依りて、工場は全焼したが、更に再興に努め、大正十三年四月二十日、漸く一部工場を落成し、事業の恢復を爲し、なほ殘餘の工事にも著手中である。

三八 弘明寺町九五、株式會社成和商會帽子リボン工場

震災の被害は多少あつたが、其後復舊工事を督勵して、同年十一月より業務を開始し、震災以前に勝る繰業に従事した。

(大正十三年市
商工課調査)

工業別震災被害一覽

(大正十三年三月)

種別	被害				(計)	(保險金額)
	工場	事務所	機械	原料		
輸出織物染色整理精練	六四	一七	六八	九三	一三〇三	三六七九
捺	二	八	一〇	四	二二	六六〇
リネルバテン整理	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
西洋洗張	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
染色及洗張	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
手拭染	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
其他染物	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
手巾及肩掛	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
卓子掛下ロスワ	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
刺	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
其他加工物	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
絹綿寝衣著物	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
襪衣及胴衣	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
莫大	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
(計)	四一	一四	一五	一六	八六	三,七〇一

種別	被害				(計)	(保險金額)
	工場	事務所	機械	原料		
製績及加工品	三	一	一	一	六	一,〇〇〇
紡績及加工品	四	一	一	一	七	一,〇〇〇
織物	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
雜物	一	一	一	一	四	一,〇〇〇
(計)	一〇	四	四	四	二二	四,〇〇〇

二、機械及器具工業

種別	被害				(計)	(保險金額)
	工場	事務所	機械	原料		
機	三	一	一	一	六	一,〇〇〇
船	九	一	一	一	一二	一,〇〇〇
車	二	一	一	一	五	一,〇〇〇
器	三	一	一	一	六	一,〇〇〇
釘	三	一	一	一	六	一,〇〇〇
鐵螺子鐵鎖	三	一	一	一	六	一,〇〇〇
鑄	三	一	一	一	六	一,〇〇〇
鑄物類	三	一	一	一	六	一,〇〇〇
電	四	一	一	一	七	一,〇〇〇
管及鉛管	二	一	一	一	四	一,〇〇〇
木	二	一	一	一	四	一,〇〇〇
貴金屬製品及裝身具	一	一	一	一	三	一,〇〇〇
建築金物	一	一	一	一	三	一,〇〇〇
雜	二	一	一	一	四	一,〇〇〇
(計)	二八	一〇	一〇	一〇	五八	六,〇〇〇

工業別震災被害

用する工場に就き調査した。本市大正十一年十二月末日現在に於ける常時職工十人以上を使用する工場三三一工場に於ける被害額を推定するに、工場建物貳千六百六拾五萬五千圓、事務所五百貳拾五萬五千圓、機械參千八百八拾九萬圓、原料貳千參百參拾九萬九千圓、製品貳千八百八拾四萬四千圓、計壹億貳千參百四萬參千圓の見込である。尙工場復興事業繁閑に依りて之を區別すれば、左の如くである。

一 比較的事業繁忙のものは

製綿船舶車輛電線建築金物印刷及製本製材及加工家具建具及指物疊加工である。

二 比較的事業閑散のものは

輸出織物染色整理精練捺染布帛製品刺繡絹綿寢衣及著物襯衣及ビジャマ莫大小織物漆器紙製品麻綿絲真田靴紐蠶絲屑物選別輸出包裝木箱スリッパ鍍金竹及籐製品等である。

輸出入國別價額

(大正十二年)

(國名)	(輸出額)	(輸入額)
亞細亞洲		

支那	一〇,三二五,五六一	四六,七八九,〇〇三
關東	四,一八五,七九一	三八,六〇二,三九八
香港	二,七四一,一八〇	九二,四三八
英領印度	九,一四六,〇〇七	二一,九〇一,一九四
英領海峽殖民地	一,二七一,〇五〇	三,七五四,〇八〇
英領印度	二,〇六九,七三一	一〇,九七六,〇四八
佛領印度	二九九,六四二	一,〇六四,五三八
佛領亞細亞	五二,〇三六	一,〇五九,五三〇
露領亞細亞	八六一,一一六	六,三七七,四〇四
暹羅	二一三,〇二六	一,二五二,三六五
其他諸國	三〇,一九一	二一,八五六
(計)	三二,一八五,三三一	一三一,八九〇,八五四

歐洲	巴	洲
英	一三,四五九,六七四	六一,八一九,五〇一
佛	一五,七八一,九二八	六,四六九,六八八
獨逸	五二一,〇一八	二九,三八五,八九一
白耳	二四〇,一五三	三,六六七,〇七八
伊太	一,〇八九,六八七	一,〇四五,八五六
瑞	四三,九七七	四,五〇九,四〇三

工業別震災被害

四二一

工業別震災被害

埃	太	五二七
チ	コ、	一、一八一
ス	ラウ	一二三、八六七
ワ	キ	一二四、五六三
ア	蘭	二、六三八
瑞	典	六六
諸	威	一三四、八三二
露	亞	三四、二六九
波	蘭	一一、一〇六
西	牙	四〇四
班	其	九、六六五
丁	抹	三一、五七九、八五七
士	耳	
葡	荷	
其	他	
(計)	諸	

北亞米利加洲

北	一八九、六一八、九一一
米	六、九〇三、一六四
合	一九五、一九三
衆	二〇三、三五一
國	一、〇二二、七五三
(計)	五〇六、九四三、三七二

四二二

埃	二八九、六〇二
太	一一、七八〇
チ	一、二五八、二六六
ス	三、二八六、六三三
ワ	九四三、四三三
ア	一五一、三八七
瑞	一、九三七
諸	二六八、七八六
露	六二、五七四
波	一七六、六〇七
西	一、〇九二
班	二〇、八四九
丁	二二、三七〇、三六八
士	
葡	
其	
(計)	

南亞米利加洲

秘	露	四一六、三五二
智	利	三三五、六八八
亞	然	三、六六一、九六六
伯	爾	一五八、三一〇
其	諸	六四〇、六一二
(計)	國	五、二一二、九二八

亞佛利加洲

埃	及	一、五九一、四六七
喜	望	一、四八九、七八五
其	他	一一〇、五九一
(計)	諸	三、一九一、八四五

其他諸洲

濠	九、一四九、六七二
新	一、三七八、八二一
布	九五五、九一七
(計)	

工業別震災被害

四二三

埃	八、八六四、六九四
太	一八三、九四四
チ	一三九、三〇二
ス	九、一八七、九四〇
ワ	
ア	
瑞	
諸	
露	
波	
西	
班	
丁	
士	
葡	
其	
(計)	

其 他 諸 國	(計)	假 置 場	(計)	(總 計)
六〇,九九三	一一,五四五,四〇三	×	×	×
二,〇九九,三一四	三二,一八六,二〇八	×	×	×
四三八,六二三	五七,七二一,三〇八	×	×	×
五二,二七九,八四一	六六八,六一一,〇二七	×	×	×
	七八,九五二,二九三			

備考 八月分は果に含まぬ。但シ×印は累計に八月分を含めてある。

第三節 商業

一 概況

大正十二年九月の大震災は、遽然として我が港市凡百の機關を壊滅し、萬品百貨悉く烏有に歸し、眞に其損失數量の夥多なる、今之が算出を爲すに苦しむ次第である。されど震前の商況より推想して算出すれば、其概數は左の如くである。(別表添付。)

災後市民は廣漠たる焦土の上に立つて、暫くは其の方向に迷つて居たのであるが、民心稍安定するに従ひ、漸次復興の精神を喚起し、著々家業の再興に著手し、爲めに交通の要衝に當れる街頭には、飲食店の開業夥しく、やがて伊勢佐木町通りを初め、神奈川戸部町本町元町本牧方面等、漸次同業者の奮闘活躍目醒しく、尙復歸者の増加と共に、バラック建築激増し、爲に日要品販賣業者相次いで開業するに至つた。

災後物資の窮乏は、官民を擧げて復興に全力を傾注し、勤儉力行、一意物質復興の大目的に向つて突進し、飽まで堅實の態度に出でしを以て、所謂贅澤品に屬する貴金屬販賣業者の如きは、一時は全く其營業を廢止するの已むなき苦境に陥つた。其後稍、頽勢の

挽回を見しも、尙其復興の困難なりし事實に想像の外にある。

爾來一般商賈の中には、一二活動力微弱で、其復興上尙救援を要するものなきにあらざれども、今や斯業に對する當路者の施措對策、機宜に適ひ、金融・倉庫・運輸業諸機關の整備と相俟つて、商賈の復興著々進捗し、既に本市各方面の街衢稍盛觀を有するに至つた。

震災に依る本市商業店舖の被害表

營業種別	戸數	(損害一戸當平均)	(保險金一戸當平均)	(總戸數)	(總損害額)	(總保險金額)
陶器	三	二六九〇四七	一〇三六五七	三	三〇二、八三六	一、五三、九六四
藥品	四	三三、七五八	七、一〇〇〇	五	一、三三、八六六	四、〇一、〇〇〇
白米	四	一七、〇二五	四、九四〇	九	一、六七、〇四五	四、九六、三三三
穀物	四	一〇、七九三	四、〇六六	四	四、八六、九九五	二、六〇、七四七
紙類	三	四、六六九	一、八四六	九	三、七、四六八	一、五八、八八四
吳服	三	二、五三七	一、八四五	一	五、〇七、五〇七	一、〇三、六四四
毛織物	二	六、〇〇〇	五、〇〇〇	三	一、三、五、〇〇〇	六、〇〇、〇〇〇
古着	二	一五、〇〇〇	四、五〇〇	二	三、七、〇〇〇	一、五、〇〇〇
半襟	二	一三、〇〇〇	一、〇〇〇	二	二、四、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
食料	二	四、四二五	八、五〇〇	七	三、五、九三二	六、〇一、〇〇〇
肉類	一〇	三、〇〇〇	一〇、四〇〇	五	一、八、〇七、〇〇〇	五、九、六、〇〇〇

營業種別	戸數	(損害一戸當平均)	(保險金一戸當平均)	(總戸數)	(總損害額)	(總保險金額)
家具及建具	三	三、九三三	五、五五三	二	五、七、〇五九	一、四、八、九、五、四九
木材及竹	三	六、七九六	二、四、五〇〇	一	八、一、七、九八〇	二、七、〇、四、〇〇〇
漆器及荒物	九	一〇、七八五	四、七、六〇〇	一〇	一、二、五、四、九七五	四、七、二、八〇〇
果物	一五	二、四二九	三、三、〇〇〇	一五	一、五、四、六、四四五	八、八、四、九、〇〇〇
乾物	一七	三、二四五	三、二、八〇〇	九	二、八、七、七、四〇〇	二、七、七、七、〇〇〇
海産物	三	一五、四四二	三、三、三五	一	二、八、七、三、三六	五、二、六、七、〇〇
玩具	三	三、六二五	一、七、五八六	一	三、一、六、一、五五	一、五、九、八、六、一〇
飲食	九	一、八、六六六	八、六、七、七	九	一、四、四、〇、六、一四	一、五、二、六、五、三
絲綿	三	二、六九七	三、五、五、七	二	三、九、〇、七、九二〇	八、四、二、七、五、六
醬油味噌類	三	三、三〇〇	四、三、〇〇〇	二	六、三、八、三、〇〇〇	一、一、四、四、一、三、八〇
酒類	九	二、三二二	二、九、七、七	四	三、二、〇、七、五五二	一、〇〇、三、八、八、五
雜貨	三	三、五六一	二、四、三、五六	九	三、〇、四、四、九、七五	一〇、六、九、〇、七、六六
化粧品及小間物	七	二、二九三	一、四、三、五	八	一〇、三、三、九、〇四〇	一、九、五、六、六、九六
履物	四	一、五、九、四〇	五、八、四、二	三	一、五、七、五、七、五〇	四、三、一、六、四、四〇
船具	六	五、五、三三	五、二、七、五	三	三、七、〇、四、六、四〇	一、三、一、四、五、〇〇
金物	三	五、一、五、三三	一、七、九、三三	三	一、六、三、四、四、五九	四、二、四、六、五、九
銅鐵	三	二、六、六、五五	七、九、四〇〇	一	三、〇、五、四、三、九五	九、三、一、〇〇〇
時計	七	五、五、七、六六	二、七、八、五二	三	一、八、〇、一、七、五三	八、九、四、七、五
布匹	一五	一、一、二、〇〇〇	四、六、六、六六	八	一、〇、〇、一、七、〇〇〇	四、九、九、九、二、四
薪炭	八	四、〇〇〇、八、五〇	七、〇、〇、五〇	二	一、五、〇、三、三、〇〇	二、五、八、三、五、〇〇

鷄卵商	三	三三,三三三	九二,六六六	一〇	三三,三三三	九二,六六六
葬具商	二	六〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三	六〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
麵類商	七	二二,四二四	四七,四〇〇	五	二二,四二四	四七,四〇〇
染色業	二	一〇,三三三	一〇,五〇〇	三	一〇,三三三	一〇,五〇〇
印刷及烙商	二	三,五五〇	四,五〇〇	四	三,五五〇	四,五〇〇
經判師職	二	一〇,一〇〇	五,五〇〇	六	一〇,一〇〇	五,五〇〇
以上ノ外雜商	一〇八	一〇,三三三	七,五五五	五〇〇	一〇,三三三	七,五五五

合 計 一 二 八 九 (總戸數當り平均) 二 六 〇 〇 一 五 九 (總戸數當り平均) 八 六 四 三 二 五 三 五 五 四 七 九 五 三 七 三 一 〇 一 〇 四 四 五 〇 三 三

(大正十三年四月) 市商工課調

二 横濱商業會議所 概況

明治二十八年十二月、横濱商業會議所創立以來、同所は本市貿易市場の重鎮となり、震災前は事務所を横濱開港記念會館の階下南室に構へ、書記長外數名の事務員・小使等、夫々執務に繁忙を極めて居つた。九月一日は平日の如くに午前の執務を終へ、一同晝飯に著かんとする刹那、大音響と共に激動し、市内建物中豪莊の誇りで有つた同館も、今や

倒潰を氣遣はるるまでになつたので、所員は一時街路に逃がれ、周圍の情勢を傍觀したが、刻々に迫る身邊の危険に、之を免るるに如何なる術もなく、保管品の一點だも搬出すること不可能となり、午後二三時頃、尾上町方面より襲來した猛火は、同所の周圍を燃焼し、是に於て所員は解散するの已むなきに至つたのであつた。當時財産明記目録等を焼失した爲め、その損害數も不明であるが、主なるものとしては、過去幾十年間同所の貴重品として保管し來た數千部の藏書を灰燼に歸せしめた事で、此事は今後も永く忘るることの出來ない憾事である。次に當日所員中書記長及雇員一名は、避難の途次災禍の犠牲となりしものか、其後死體も發見し得られぬのである。

○ 災後の應急事務

災後十五日より同記念會館前の荒土に、不完備なる假小屋を建立し、同所の所在を知らしめ、殘員を派出せしめたのであつた。その後十七日假市廳舍樓上に於て、災後第一回の總會を開始し、會議員人士を網羅して、悲愴裡に今後の熱烈なる諸運動を表示決定し、更に事務所は市復興會事務所の一隅に移し、活動を開始したのである。今夫れらの協議の内容を概記すれば、左の如くである。

十七日午後一時、市役所假事務所樓上に於て商業會議所總會を開會し、震災後に於ける市内商工業の復興策に關し、種々討議の結果、横濱市復興會と提携して、商工業者の各種機關と連絡を保ち、極力善後策を講ずることとし、左記の議案を可決した。

我横濱市は帝都とともに振古未曾有の災厄に遇ひ、殊に當市の慘狀の激甚なる殆んど言語に絶す。之が爲めに數萬の生靈を失ひ、過去六十年間に亘り、市民が不撓不屈の努力を以て建設したる經濟的及び文化的の基礎は、底根より覆されて、又其の跡を止めざるに至れり。其慘狀を目撃するもの誰か茫然自失せざるを得んや。吾人の見る所を以てすれば、今回の災厄に基く損害は全般を通じて、蓋し五十億圓を下らず。當市の被る所亦六億に及ばん。彼の國運を培して戦ひたる日清日露の兩役を以てしても、其の戦費が通計して遙かに今次の損害額に及ばざるを思はば、如何に其災害の甚大なるに戰慄せざる能はず。而して其の被害は京濱兩市商工の中心に亘りて、其の全部を破壊したるを以て、生産を杜絶し、貿易を停止し、到底市民の能力をもつて之れが回復を全うすること能はず。隨つて復舊に對し、未だ何等の曙光を認むること能はざるの狀勢を考ふれば、吾人は切に其の災厄の深甚なるに想到せざるを得ず。此の時に際し、吾人は當面の急に處する爲、縣市當局者を援けて、極力災害の救助整理に盡力せざるべからざるは勿論なれ

ども、更に大なる責任として、吾人の隻肩に懸るものは、當市の復興とその經濟的回復とにあり。

惟ふに我横濱は帝都の關門たると同時に、本邦の大半に對する國際貿易の吞吐口たり。京濱兩市は經濟的に一單位たり。横濱の復舊は獨り我が市民の爲めに之を必要とするのみならず、實に帝都の爲め將た我が國全般の爲めに、絶対に之を必要とす。横濱にして復興せざれば、帝都の復興は全からず。横濱にして其の經濟的回復を見ざれば、災厄に起因せる我が國の經濟的破壊は眞に恢復せりと言ふことを得ず。政府當局者及び一般國民は此理を了知するが故に、吾人は國家が帝都の復興に關聯して、當市の復興に全力を盡すを疑はずといへども、然かも横濱の復興は横濱市民の絶大なる努力と犠牲とに俟たざる可らず。吾人は斷々乎として確固たる信念の下に、不撓の精神を以て、當市の復興に向つて勇往邁進、以て其の目的を達するの覺悟を定めざる可らず。復興の第一は港灣の復舊にあり。幸にして今回の震災が其の設備に加へたる損害は、外見の如く甚だしからず、僅々數百萬圓を以て港灣の使用を全からしめ得べしといふ。我國貿易の大半は勿論、災害の復興に要する主要なる物資の陸揚げは、主として我が横濱港に俟たざるべからず。幸に國家が此の見地に據り、極めて敏活に其の復舊に著手せられるは、吾人の感謝に堪へざる所なり。思ふに當港の利用は今後益々大ならんとするに當り、吾人は單に其の復舊を以て満足すべきにあらず。當港の果すべき使命を全からしむる爲め、適當の擴張計畫に對し、其の調査研究は勿論進んで其の實現に對する努力を緩ふすべきにあらず。

生絲の輸出は帝國經濟の脊髄にして、又當港の生命なり。此業務は實に我が市民が數十年に亘る努力の結晶なるが故、當市に於て其の既に占めたる地歩を永遠に維持せんとするは、吾人の權利たると同時に又其業務なり。我が生絲業者が此の最大厄難の日に當り、全般の施設を悉く喪失したるに不拘、毅然として起ち、災後未だ二旬を出でざるに、早く既に其の取引を開始せるは、殆んど人力を超越せるの努力にして、其元氣旺盛なる誠に人意を強ふする者と謂ふべし。吾人は其の努力に對し、又政府及横濱正金銀行が此の計畫に對する至大の援助に對し、萬腔の感謝を表すると同時に、吾人市民も亦終局する其の目的を達せしむる爲、如何なる援助も之れを吝まざるの覺悟を有せざるべからず。當市及其の背後地帯に於ける工業は、當市の經濟的動脈なり。幸に近時漸く其の激振を見んとするに當り、此の災厄に際會して、殆んど全部の破壊を見たるは、其の遺憾譬ふるに物なし。吾人は國家が此の如き工業の復舊に對し、至大の援助を與ふることを疑はざれども、之と同時に其の實現に對し、吾人は大々的の努力を致さざるべからず。吾人は今回の災害に遇ふて、偏に天意可畏の感を禁ずる能はず。各人速かに内に自ら省み、相警め相援め、眞摯質實の本義に據り、奮勵努力、商工の復興を計り、禍を變じて福となすの覺悟を有し、帝國國運を負うて、當市の復興進展を期するの覺悟を表明せんとす。(大正十二年九月十九日 横濱市日報記載)

三 横濱取引所

十月十六日、帝國ホテルで、横濱取引所大株主會を開き、取引再興に就いて協議した。出席者二十五名で、井坂理事長の情理ある挨拶で、何等の異議なく、滿場一致報告を承認し、尙之が實現を期する爲め、井坂理事長指名で、左記七氏が市場再興促進委員に擧げられ、十八日午後二時から、取引所假事務所市場再興促進委員會を開いて協議した。

渡邊 文七

小島 周

布澤

純(指田氏代理)

小出 範次(根津氏代理) 片倉 兼太郎

有松

尙龍(米穀取引所委員)

飯沼 民作(名古屋取引所員)

(横濱市日報)